

令和5年度

# 会誌

第29号

宮崎県特別支援教育研究連合

## はじめに

宮崎県特別支援教育連合の令和5年度会誌第29号を発行する運びとなりました。本研究連合は、小・中学校特別支援教育研究会と特別支援学校教育研究会の連合体として組織されており、今年で29年目を迎えました。会員の皆様には、日頃より本研究連合の運営に御理解と御協力をいただき心よりお礼申し上げます。

本年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、感染症対策の影響を受けることなく取組を推進することができました。コロナ禍においては、一気にIT化が進み、オンラインや書面による会議、オンデマンドでの動画配信等が一般的になり、本研究連合においてもハイブリッド型など様々な工夫をしながら活動を続けてきました。しかし、研究を深めるためには、やはり、従来のように参加者が顔を合わせ悩みや課題を共有し、持ち寄った実践について互いに協議を深めることが重要であると考えます。このことは一人一人へ直接的できめ細かな指導・支援が欠かせない特別支援教育と相通ずるものがあるのではないかと思います。本研究連合の取組を通して、特別支援教育を担当する教員相互が交流し絆を深めることで、各エリアや障がい種の専門性が高まり、教員のネットワークが構築され本県の特別支援教育の充実・発展が図られることを期待しています。

本年度の取組としては、「インクルーシブ教育の充実に向けた、社会に開かれた教育課程の実践教育」を推進するため、7つのエリア部会及び7つの障がい種別教育研究部会において研究会等の活動が進められました。各部会の活動内容や研究成果については、会誌の作成及びホームページ掲載を行うとともに、理事会・事務局連絡会において共有、協議し、次年度への取組に反映していくこととしています。また、今年度は、令和6年度の宮崎県特別支援教育研究連合研究大会の準備を進める年度となっており、延岡・西臼杵部会及び大会事務局校である延岡しろやま支援学校を中心に研究大会担当者会議を開催し内容の検討をしていただきました。令和6年8月6日に「新しい時代の生きる力をはぐくむみやぎきの特別支援教育」という大会テーマの下、講演及び障がい種別教育研究部会の分科会という内容で実施する予定となっています。

本県の特別支援教育については、全国の状況と同様、対象者が増加の一途をたどっており、特別支援教育免許のある教員の不足、学習支援員の不足、教室の不足等、困難な状況に拍車がかかっています。その中で、令和4年9月に障害者権利委員会から分離教育の中止の勧告がなされたことや同年12月の文部科学省の調査により、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒が、小中学校では8.8%、高校では2.2%であったこと等から、インクルーシブ教育の実現に向けた国や県の施策等の動きが益々加速することが見込まれます。私達も子供たちに何が必要なのか見極めながら、共生社会に向けた教育の在り方を追求していかなければなりません。課題が山積する中ですが、本研究連合の取組について見直しや改善を図りながら、新たな時代のニーズに応じた特別支援教育の充実を目指していきたいと思えます。

結びにあたり、県教育委員会をはじめ市町村教育委員会や関係諸機関の皆様の御理解と御支援に感謝申し上げますとともに、本研究連合の益々の発展を願って巻頭の挨拶といたします。

令和6年3月

宮崎県特別支援教育研究連合 会長 松田 律子  
(みやぎき中央支援学校長)

## 目次

はじめに	・・・・・・・・・・	P 1
目次	・・・・・・・・・・	P 2～P 3
県特研連のあゆみ	・・・・・・・・・・	P 4～P 5
I 宮崎県特別支援教育研究連合組織	・・・・・・・・・・	P 6～P 7
令和 5 年度研究組織図	・・・・・・・・・・	P 8～P10
II 事業方針及び研究計画の概要	・・・・・・・・・・	P11
令和 4 年度収支決算報告	・・・・・・・・・・	P12～P13
令和 5 年度事業の概要	・・・・・・・・・・	P14～P16
III 各障がい種別教育研究部会活動報告	・・・・・・・・・・	P17
視覚障がい教育研究部会	・・・・・・・・・・	P18
聴覚障がい教育研究部会	・・・・・・・・・・	P19
知的障がい教育研究部会	・・・・・・・・・・	P20
肢体不自由教育研究部会	・・・・・・・・・・	P21～P22
病弱教育研究部会	・・・・・・・・・・	P23
情緒障がい教育研究部会	・・・・・・・・・・	P24
難聴・言語障がい教育研究部会	・・・・・・・・・・	P25
IV 各エリア部会活動報告	・・・・・・・・・・	P26
宮崎・東諸県エリア部会	・・・・・・・・・・	P27
日南・串間エリア部会	・・・・・・・・・・	P28
西都・児湯エリア部会	・・・・・・・・・・	P29
都城・北諸県エリア部会	・・・・・・・・・・	P30
小林・西諸県エリア部会	・・・・・・・・・・	P31
日向・東臼杵エリア部会	・・・・・・・・・・	P32
延岡・西臼杵エリア部会	・・・・・・・・・・	P33
V 令和 5 年度 全国大会報告	・・・・・・・・・・	P34
全日本盲学校教育研究大会（第 9 8 回北海道大会）	・・・・・・・・・・	P35
全日本聾教育研究大会（第 5 7 回奈良大会）	・・・・・・・・・・	P36
全日本特別支援教育研究連盟全国大会（第 6 2 回徳島大会）	・・・・・・・・・・	P37
全国肢体不自由教育研究協議会（第 6 9 回島根大会）	・・・・・・・・・・	P38～P39
全国病弱教育研究協議会（第 6 4 回福岡大会）・九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会（第 6 3 回福岡大会）	・・・・・・・・・・	P40
全国情緒障害教育研究協議会（第 5 5 回埼玉大会）	・・・・・・・・・・	P41
全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会（第 5 2 回埼玉大会）	・・・・・・・・	P42

VI	令和5年度 九州地区研究大会報告	・・・・・・・・・・	P43
	九州地区盲学校教育研究会（宮崎大会）	・・・・・・・・・・	P44
	九州地区聴覚障害教育研究大会（第28回大分大会）	・・・・・・・・・・	P45
	九州地区特別支援教育研究連盟研究大会（第57回福岡大会）	・・・・・・・・・・	P46
	九州地区肢体不自由教育研究大会（第60回鹿児島大会）	・・・・・・・・・・	P47
	九州地区情緒障害教育研究会（第51回長崎大会）	・・・・・・・・・・	P48
	九州地区難聴・言語障害研究大会（第47回長崎大会）	・・・・・・・・・・	P49
VII	宮崎県小・中学校特別支援教育研究会と宮崎県特別支援学校教育研究会の活動報告	・・	P50
	宮崎県小・中学校特別支援教育研究会	・・・・・・・・・・	P51
	宮崎県特別支援学校教育研究会	・・・・・・・・・・	P52～P53
VIII	規約・細則	・・・・・・・・・・	P54～P58
	おわりに	・・・・・・・・・・	P59

# 宮崎県特別支援教育研究連合のあゆみ

## 「宮崎県特殊教育研究連盟設立趣意書」

※注) 「宮崎県特殊教育研究連盟」は本連合：  
宮崎県特別支援教育研究連合の旧名称

盲教育に端を発した本県の特殊教育は、国における制度的な整備とともに、施設、設備の面においても、また教育内容・方法等においても年々充実が見られ、障がいのある児童生徒の可能な限りの社会参加を目指した教育が推進されているところであります。この間の関係者の献身的な取り組みに対し心から感謝申し上げます。

しかしながら、近年、児童生徒の障がいの重度重複化・多様化傾向や障がいを取り巻く環境の変化に伴う保護者の意識の高まり等が見られ、これまで以上に多くの課題が見られるようになっております。中でも、個に応じた教育課程の編成・実施、後期中等教育の充実、適正就学、進路指導の充実等に係わる課題は喫緊の課題としてその具体的な対応を迫られているところであります。

このような状況の中、小・中学校において特殊教育に携わっている教師や盲・聾・養護学校の教師の間から、一堂に会して課題解決を図ることが効果的であり、そのために共通の場を設置することが必要であるとの声が聞かれるようになってまいりました。しかし、こうした思いは度々話題となりながらも、その実現は機が熟するところまでにはいならず今日まで持ち越されてきたところであります。

幸い、平成7年1月「盲・聾・養護学校教育研究会」が設立されたのを機に、連盟発足の機運が高まり、ここに「宮崎県特殊教育研究連盟」が発足する運びとなった次第であります。38年という輝かしい歴史をもつ「宮崎県特殊教育研究会」と専門的な機関の持つ機能が相互にその特性を生かしていくことにより、これまで以上に多様かつ深い課題解決が推進され特殊教育の振興・発展が期待できるものと確信いたします。

本連盟は、こうした経緯の中、多くの関係者の願いをもとに設立されたものであり、その具体的な目的、活動等は規約に示すとおりであります。特に次のようなねらいをもって組織されたものであります。

一、研究活動を通して重度重複化・多様化した児童生徒の指導のあり方を探るとともに個々の教師の資質向上を図る。

一、それぞれの立場から現状認識をもとに将来をも含めた特殊教育の課題とその解決策を探り、特殊教育のより一層の充実を図る。

一、地域における教育活動を推進し特殊教育の更なる活性化を図る。

全国的にあまり例を見ない試みであるだけに、この組織を生かし育てていくには多くの困難も予想されます。会員一同、本会発展のために努力していく所存ではありますが、教育委員会をはじめ各関係機関には本連盟の趣旨をご理解いただき、本会が意義のある組織として発展しますよう各段のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

(平成7年2月：設立総会にて)

設立時の主旨は、今も変わることなく我々の進むべき道を照らしてくれています。そして特殊教育から特別支援教育への移行に対応した組織とするために数カ年の検討期間を経て、平成16年度に組織改編、平成17年度に名称変更、平成18年度に研究大会をブロック部会によるローテーション開催で行うこと(平成20年度より開始)について取り決め、先輩方が築かれた財産を伝承していきながら、新しい時代に対応した組織となるよう本連合は進んでいきます。

(平成18年度 加筆)

共生社会の形成に向けた特別支援教育の取組が進展していく中で、成立時の主旨は大きな意味を持ち続けています。本連合は、設立から四半世紀が過ぎました。会運営の中で出てきた課題改善のため、令和2年度に本連合システムの検討を進めました。

令和3年度から、「ブロック部会」を「エリア部会」に移行します。「エリア部会」は、宮崎県のエリアサポート体制を踏まえ、組織改編を行います。

また、令和4年度からさらに特別支援教育の専門性を重視した研究大会を実施していきます(隔年開催)。運営をエリア部会(事務局校は知的障がい支援学校)が担当します。研究大会担当エリアの事務局校をメイン会場として、「障がい種別部会」ごとに設けた会場からオンラインで大会に参加できるようにするとともに、各「障がい種別部会」が計画する研修を分科会の内容として行っていきます。インクルーシブ教育システムを構築し、自立と社会参加を見据えた連続性のある多様な学びの場をさらに充実していくために、宮崎県特別支援教育研究連合は今後も前進していきます。

(令和3年度 加筆)

表：宮崎県特別支援教育研究連合（宮崎県特殊教育研究連盟）のこれまで

期 日	場 所	会 議 名	内 容
6年 6月27日	宮崎県庁	宮崎県公立小・中特殊教育設置校長、並びに県立盲・ろう・養護学校長代表者会	役員選出
6年 8月12日	宮崎県庁	第1回宮崎県特殊教育研究連盟発足準備委員会	基本方針
6年 9月22日	宮崎県庁	第2回宮崎県特殊教育研究連盟発足準備委員会	組 織
6年10月29日	清武養護学校	第3回宮崎県特殊教育研究連盟発足準備委員会	規 約
6年11月19日	清武養護学校	第4回宮崎県特殊教育研究連盟発足準備委員会	規 約
6年12月12日	附属小学校	第5回宮崎県特殊教育研究連盟発足準備委員会	総会運営
7年 1月28日	附属小学校	第6回宮崎県特殊教育研究連盟発足準備委員会	総会運営
7年 2月18日	清武養護学校	宮崎県特殊教育研究連盟設立総会準備会	役員等
7年 2月28日	宮崎市中央公民館	宮崎県特殊教育研究連盟設立総会	発足承認
16年 7月27日	宮崎市総合福祉保健センター	平成16年度宮崎県特殊教育研究連盟代議員会（総会）	組織改編承認
17年 7月27日	宮崎市総合福祉保健センター	平成17年度宮崎県特殊教育研究連盟代議員会（総会）	名称変更承認
20年 8月 7日	宮崎市佐土原総合文化センター	第12回宮崎県特別支援教育研究連合研究大会 宮崎ブロック部会大会	研究大会のブロック部会によるローテーション開催開始
令和3年6月	新型コロナウイルス感染拡大予防のため書面議決にて開催	令和3年度宮崎県特別支援教育研究連合第1回理事会及び代議員会（総会）	組織改編（ブロック名称変更）承認

# I 宮崎県特別支援教育研究連合組織

1

# 県特研連について

宮崎県特別支援教育研究連合  
(略称: 県特研連)

2

小・中学校特別支援教育研究会  
(略称: 小中特研)

+

特別支援学校教育研究会  
(略称: 特支研)

3

## 県特研連とは

宮崎県の特別支援教育を推進するための研究団体

### ・規約 第二章 目的

特別支援学校と特別支援学級並びに通級指導教室（以下「特別支援学級等」という）を設置する小学校・中学校相互の連携を緊密にするとともに、特別支援教育に関する実践研究・調査及び特別支援教育の充実・振興を図ることを目的とする。

4

## 県特研連は2つの部会で構成されています

エリア部会	障がい種別教育研究部会
・地域の特別支援教育について研究を行う。	・障がい種別の教育研究を行う。

### 主な活動

- ① 各部会ごとの研修会等
- ② 研究大会（県全体 2年に1回）

5

県特研連大会 主題（2022年から10年間の大会主題）

## 新しい時代の生きる力をはぐくむ みやざきの特別支援教育

### 主題設定の理由

- ① 時代背景 → 新しい時代
- ② 特別支援教育の時代背景 → インクルーシブ教育システム
- ③ 学習指導要領（文部科学省）「生きる力 学びの、その先へ」  
…目指すのは「社会に開かれた教育課程」の実現
- ④ みやざき特別支援教育推進プラン（宮崎県教育委員会・平成30年度）  
具体的な施策  
「子ども一人一人の学びのニーズに応じた質の高い教育支援システムの構築」

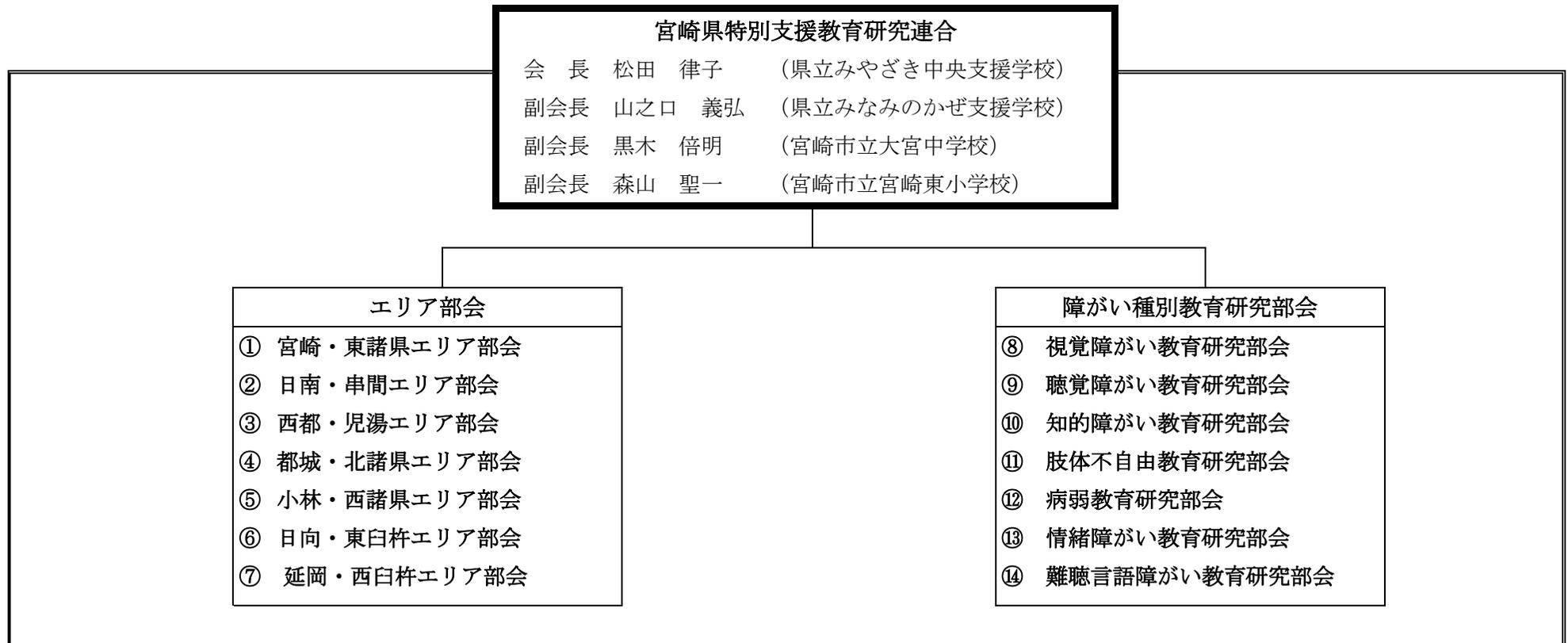
6

## 大会のローテーション

5年度		25回大会準備期間
6年度	25回	北部（延岡しろやま支援学校）
7年度		26回大会準備期間
8年度	26回	南部（都城きりしま支援学校）
9年度		27回大会準備期間
10年度	27回	中部（日南くろしお支援学校）
11年度		28回大会準備期間
12年度	28回	北部（日向ひまわり支援学校）
13年度		29回大会準備期間
14年度	29回	南部（小林こすもす支援学校）

令和5年度 研究組織

(1) 組織の全体



\* 組織について

本連合は、宮崎県小・中学校特別支援教育研究会（小・中特研）と宮崎県特別支援学校教育研究会の連合体である。連合体であることにより県教委公認の研究団体として認められ、研修出張や共催・後援等が可能になる。

【参考】

ア 宮崎県小・中学校特別支援教育研究会

事務局：宮崎大学教育学部附属小学校、宮崎市立小戸小学校  
 各地区：①宮崎地区 ②東諸県地区 ③日南地区 ④串間地区 ⑤都北地区 ⑥西諸県地区 ⑦西都地区 ⑧東児湯地区 ⑨日向地区 ⑩延岡地区 ⑪西臼杵地区

イ 宮崎県特別支援学校教育研究会

事務局：みやざき中央支援学校  
 各部会：①教務主任部会 ②生徒指導主事部会 ③保健主事・養護教諭部会 ④進路指導主事部会 ⑤栄養教諭・学校栄養職員部会 ⑥美術科代表者部会 ⑦音楽科代表者部会 ⑧保健体育科代表者部会 ⑨家庭科代表者部会 ⑩自立活動代表者部会 ⑪情報教育代表者部会

宮崎県特別支援教育研究連合

エリア部会

宮崎・東諸島  
エリア

日南・串間  
エリア

西都・児湯  
エリア

都城・北諸島  
エリア

小林・西諸島  
エリア

日向・東臼杵  
エリア

延岡・西臼杵  
エリア

九州

全国

視覚障がい 教育研究部会	明星視覚支援 学校						特別支援学級 中/1		九州地区盲学校 教育研究会	全日本盲学校 教育研究会
聴覚障がい 教育研究部会		特別支援学級 小/1	特別支援学級 小/1		都城さくら 聴覚支援学校			特別支援学級 小/1	九州地区聴覚障害 教育研究部会	全日本聾教育研究会
知的障がい 教育研究部会	特別支援学級 小/56 中/31 みやざき中央 支援学校 みなみのかぜ 支援学校	特別支援学級 小/13 中/6 日南くろしお 支援学校	特別支援学級 小/18 中/12 児湯るびなす 支援学校	特別支援学級 小/35 中/18 都城きりしま 支援学校	特別支援学級 小/14 中/8 小林こすもす 支援学校	特別支援学級 小/13 中/8 日向ひまわり 支援学校	特別支援学級 小/25 中/11 延岡しろやま 支援学校・高 千穂校		九州地区特別支援 教育研究会	全日本特別支援 教育研究連盟
肢体不自由 教育研究部会	清武せいりゆ う支援学校	特別支援学級 中/1		特別支援学級 小/1		特別支援学級 小/1	特別支援学級 小/1	特別支援学級 小/1	九州地区肢体不自由 教育研究会	全日本肢体不自由 教育研究会
病弱教育 研究部会	赤江まつばら 支援学校						特別支援学級 小/2		九州地区病弱虚弱 教育研究連盟	全国病弱虚弱 教育研究連盟
情緒障がい 教育研究部会	特別支援学級 小/134 中/55 通級指導教室 情緒 小/12 中/2 LD ADHD 小/32 中/7	特別支援学級 小/19 中/9 通級指導教室 情緒 小/1 LD ADHD 小/2 中/2	特別支援学級 小/44 中/19 通級指導教室 情緒 小/2 中/1 LD ADHD 小/7 中/3	特別支援学級 小/69 中/21 通級指導教室 情緒 小/4 中/1 LD ADHD 小/7 中/3	特別支援学級 小/22 中/12 通級指導教室 LD ADHD 小/3 中/2	特別支援学級 小/30 中/17 通級指導教室 LD ADHD 小/7 中/1	特別支援学級 小/30 中/16 通級指導教室 情緒 小/2 LD ADHD 小/6 中/3		九州地区情緒障害 教育研究会	全国情緒障害 教育研究会
難聴・言語 障がい教育 研究部会	通級指導教室 難聴 小/1 言語 小/5	通級指導教室 言語 小/4	通級指導教室 言語 小/5	通級指導教室 言語 小/4	通級指導教室 言語 小/3	通級指導教室 言語 小/3	通級指導教室 言語 小/3		九州地区難聴・言語 障害教育研究会	全国公立学校 難聴・言語障害教育 研究協議会

○関係機関（九州・全国等の組織）との連携を図る（障がい種別教育研究部会）



図2：障がい種別教育研究部会と関係機関との連携

## Ⅱ 事業方針及び研究計画の概要

## 令和4年度宮崎県特別支援教育研究連合収支決算書

### 1 収入

科目	予算額	決算額	増減	備考
会費	751,500	769,800	18,300	特別支援学校 1学級 800円×426学級 小・中学校特別支援学級 1学級 500円×858学級
前年度繰越金	617,736	617,736	0	
雑収入	5	5	0	貯金利息
合計	1,369,241	1,387,541	18,300	

### 2 支出

科目	予算額	決算額	増減	備考
研究大会運営費	200,000	200,000	0	令和4年度研究大会準備金として
各部会補助金	490,000	490,000	0	35,000円×14部会
通信費	20,000	19,020	-980	切手代
消耗品費	50,000	52,430	2430	用紙、インク、事務用品、教職員録他
部会補助金 振込手数料	120,00	12,430	430	振込手数料
予備費	597,241	13,730	583,511	市民文化ホール使用料
合計	1,369,241	787,610		

### 3 収支決算

収入 (1,387,541円) - 支出 (787,610円) = 599,931円

差引残高 599,931円は次年度へ繰り越します。

預金通帳、会計簿、領収書等の照合の結果、収支ともに適正に処理されていることを認めます。

令和5年 3月 20日

監査

都城女子支援学校  
校長 種子田 保

令和5年 3月 22日

監査

宮崎市立大宮小学校  
校長 谷村 栄樹

年	月	日	調書 番号	摘 要	収入額	支出額	通帳残高	備考
4	4	1	1	前年度繰越金			617,736	
4	5	31	2	会費 児湯るびなす支援学校	20,800		638,536	
4	5	31	3	会費 赤江まつばら支援学校	10,400		648,936	
4	5	31	4	会費 清武せいりゅう支援学校	26,400		675,336	
4	6	1	5	会費 宮崎市立住吉小学校	2,000		677,336	
4	6	1	6	会費 明星視覚支援学校	13,600		690,936	
4	6	3	7	会費 日向ひまわり支援学校	20,000		710,936	
4	6	6	8	会費 小林市立須木中学校	500		711,436	
4	6	8	9	会費 宮崎市立南小学校	3,000		714,436	
4	6	9	10	会費 みなみのかげ支援学校	45,600		760,036	
4	6	13	11	会費 日南くろしお支援学校	26,400		786,436	
4	6	13	12	会費 都城きりしま支援学校	47,200		833,636	
4	6	14	13	会費 小林こすもす支援学校	18,400		852,036	
4	6	17	14	会費 都城さくら聴覚支援学校	13,600		865,636	
4	6	23	15	会費 延岡しろやま支援学校	48,800		914,436	
4	6	24	16	会費 みやざき中央支援学校	49,600		964,036	
4	7	5	17	切手代		19,020	945,016	
4	7	5	18	宛名ラベルシール代		3,771	941,245	
4	7	11	19	研究大会運営費		200,880	740,365	
4	7	15	20	教職員録代		3,610	736,755	
4	7	27	21	補助金 聴覚障がい教育研究部会		35,880	700,875	
4	7	27	22	補助金 視覚障がい教育研究部会		35,880	664,995	
4	7	27	23	補助金 知的障がい教育研究部会		35,880	629,115	
4	7	27	24	補助金 肢体不自由教育研究部会		35,880	593,235	
4	7	27	25	補助金 病弱教育研究部会		35,880	557,355	
4	7	27	26	補助金 難聴・言語障がい教育研究部会		35,880	521,475	
4	7	27	27	補助金 宮崎・東諸県エリア部会		35,440	486,035	
4	7	27	28	補助金 日南・串間エリア部会		35,880	450,155	
4	7	27	29	補助金 西都・児湯エリア部会		35,880	414,275	
4	7	27	30	補助金 日向・東臼杵エリア部会		35,880	378,395	
4	7	27	31	補助金 情緒障がい教育研究部会		35,880	342,515	
4	8	22	32	貯金利息	3		342,518	
4	9	14	33	補助金 小林・西諸県エリア部会		35,550	306,968	
4	9	15	34	補助金 延岡・西臼杵エリア部会		35,880	271,088	
4	11	4	35	宮崎市民文化ホール使用料		9,540	261,548	
4	12	16	36	宮崎県小・中学校特別支援教育研究会	423,500		685,048	
5	1	18	37	補助金 都城・北諸県エリア部会		35,880	649,168	
5	2	20	38	貯金利息	2		649,170	
5	2	24	39,40	市民文化ホール（マイク・音響拡声装置）使用料		4,190	644,980	
5	3	10	41	マスター・インク代		19,580	625,400	
5	3	10	42	事務用品として		25,469	599,931	

## 令和5年度 基本方針及び活動内容

### 1 インクルーシブ教育の充実に向けた、社会に開かれた教育課程の実践教育

7つの「エリア部会」と7つの「障がい種別教育研究部会」の活動を充実させていく。

「第2回理事会・事務局連絡会」（令和6年2月20日火曜日予定）において、各部会から年間の活動報告や研究・研修報告を行う。

- ① 他部会の活動内容、研究成果を共有し、情報交換を進めることができる。
- ② 次年度の各研究部会の大会にむけて各部会の課題を明確にしていくことで、今後の研究大会に反映していくことができる。
- ③ 報告の内容・方法等は、各研究部会に一任する。（口頭での報告で可）  
考えられる内容  
A：「会誌」に報告した内容  
→会誌の発行で終わりにするだけでなく、報告されていることを共有し意見交換することで、中身を深めることができる。  
B：各部会の研究大会で発表した内容  
C：各部会が行った研修会や講演会で得た情報の紹介

### 2 情報交換の活性化

- (1) ホームページと校務支援システム（ミライム・C4th）を活用した情報発信と情報共有
- (2) ホームページによる研究の報告、情報共有
- (3) 会誌の編集・発行（ホームページによる情報提供）  
情報提供を主とし、1年間の活動の成果を記したものになるようにする。
- (4) 九州及び全国組織の情報収集

### 3 研究大会の準備

- (1) 令和5年度 研究大会 準備  
令和4年度大会の成果、課題をもとに大会の企画を進めていく。
- (2) 令和6年度 第25回 宮崎県特別支援教育研究連合研究大会 開催  
県立延岡しろやま支援学校が主管校となる。

### 4 関係団体との連携

事業連携など

- ・「宮崎県（行政機関）」→研究団体として報告
- ・「県障がい者スポーツ大会」への後援・役員派遣（県障がい福祉課、県障がい者スポーツ協会）
- ・「宮崎県手をつなぐ育成会」→ケエバン・鉛筆等の事業への後援
- ・「九州地区および全国の各障がい種別研究会等」への参加→該当の各校で対応
- ・「宮崎県教育公務員弘済会」→教育研究団体助成金(平成19年度より)

### 5 その他





### Ⅲ 宮崎県特別支援教育研究連合 各研究部会

## 視覚障がい教育研究部会

### 1 研究主題

「視覚障がいのある幼児児童生徒の主体的な学びにつながる ICT 活用」

### 2 主な研究・活動の内容

事業内容	事業計画の概要			
	年 月 日	場 所	実 施 内 容	
研 究 会 及 び 研 修 会	R 5. 4月～6月	明星視覚支援学校	○基本研修（歩行、点字、眼疾患、弱視教育、進路、情報機器等）	
	R 5. 4. 29（土）	明星視覚支援学校	○視覚障がい福祉機器展	
	R 5. 5. 17（水）	明星視覚支援学校	○課題研究開始	
	R 5. 7. 27（木）～28（金）	明星視覚支援学校	○全日本盲学校教育研究大会北海道大会（オンライン参加）	
	R 5. 7. 28（金）	明星視覚支援学校	○視覚障がい教育研究部会 合同研修会 ○視覚障がい教育研究部会 代議員会	
	R 5. 8. 21（月）	都城市	○あいあい教室	
	R 5. 10. 20（金）	明星視覚支援学校	○あいあい教室	
	R 5. 11. 17（金）	明星視覚支援学校	○九州地区盲学校教育研究会（宮崎大会） ○教材教具展示会（16～24）	
	R 6. 1. 18（木）～19（金）	広島県	○日弱研広島大会参加	
	R 6. 2月	明星視覚支援学校	○九盲研宮崎大会報告集完成・配布	
	R 6. 3. 6（水）	明星視覚支援学校	○視覚障がい教育研究報告会	
	会	○ しろやま（延岡しろやま支援学校）、日向、小林サテライト 5～3月 月1回 ○ 宮大サテライト（宮崎大学医学部附属病院） 4～3月 月1回 ○ 都城サテライト 年2回 ○ 日南サテライト 年1回 ○ 実践授業（本校） 7月、10月、12月に実施		
	その他	○ 広島大学の ICT 研究の協力校となっている。 ○ 本年度は九盲研（宮崎大会）の主管校を務めるため、大会事務局を設置し、学校全体で運営を行った。		

#### (1) 合同研修会

本部会の代議員会の前に、筑波大学付属特別視覚支援学校の宇野和博氏を講師に迎え、「視覚障害と読書バリアフリー」について専門家の知見を教示いただいた。研修会には本部会員の中学校の先生をはじめ、県立高校、近隣保育園からも参加いただいた。

#### (2) 教材教具展示会

九盲研宮崎大会の一週間前から実施し、当日県外の参加者にも見ていただいた。

### 3 主な研究成果

本部会は、校外の会員は大王谷学園中等部の1校のみである。今年度本校が主管となった九盲研宮崎大会では、視覚障がい教育について他県の盲学校と活発な意見交換を行うことができた。

## 聴覚障がい教育研究部会

### 1 研究主題

「本県の聴覚障がい支援学校の現状と課題」

### 2 主な研究・活動の内容

#### (1) 年間活動報告

期 日	活 動	会 場
6月2日	総会 運営委員会	延岡しろやま支援学校 (リモート)
夏季休業中	夏季研修会	各グループで期日を決 め、リモート等で実施
10月19、20日	第57回 全日本聾教育研究大会奈良大会	奈良県立聾学校他
11月10日	第28回 九州地区聴覚障害教育研究大会大分大会	大分県立聾学校
2月6日	運営委員会	延岡しろやま支援学校 (リモート)

#### (2) 聴覚部会研修会

##### ① 夏季研修会担当者協議会

学部、担当教科、担当業務等に分かれて、各グループで情報交換、情報共有を行った。各校での課題や解決策について協議した。

##### ② 校内研修の共有

各校で実施している研修内容について、必要と思われるものを動画で共有し、自由に閲覧できるようにした。

### 3 主な研究成果

#### (1) 成果

一昨年度より、聴覚障がい教育研究部会として運営を開始し、今年度は都城さくら聴覚支援学校が研修担当であった。事務局である延岡しろやま支援学校と、その都度密に連絡を取り合いながら研究を進めることができた。特に来年度の研究大会内容の検討は、オンラインでの打合せや、担当者会を数回重ねながら、詳細を決めていくことができた。

夏季研修では、その教科・役職ならではの課題を共有し、解決にむけての意見交換を行った。昨年度の反省を受け、より絞り込んだグループ編成にしたことで、各校の実状をふまえた意見交換ができた。

#### (2) 課題

まず、各校で行っている専門的内容の研修について、動画を共有する試みを行った。しかし設定に時間を要し、双方が閲覧できるようになったのは2学期後半であった。今年度作った土台を生かし、来年度以降積極的に活用していきたい。

また、夏季研修では、グループによっては現状報告にとどまり、課題解決に向けた意見交換が十分できなかったという反省があった。各校の環境が異なる中ではあるが、より協議を深められるグルーピングの工夫等を来年度に引き継いでいきたい。

# 知的障がい教育研究部会

## 1 活動

「知的障がい教育研究部会の研究大会について」

## 2 主な活動の内容

### (1) 年間活動報告

期 日	会議内容及び活動概要	会 場
6月23日	第1回理事会及び総会（オンライン）	各学校
11月10日	第2回理事会（オンライン）	各学校
2月 2日	第3回理事会予定（オンライン）	各学校

### (2) 全国大会、九州大会等への参加及び協力

- 全日本特別支援教育研究連盟全国大会「徳島大会」令和5年10月19日・20日  
4年ぶりに参集型の大会開催

- 九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「福岡大会」令和5年12月1日  
参集、オンラインによる開催

提案発表者

- ◇第4分科会 作業学習・進路学習

「キャリア教育の視点や学部間・学校間の接続を踏まえた作業学習、進路学習」

提案発表者 串間市立串間中学校 教諭 大岩本 毅

- ◇第5分科会 自立活動

「中心課題を明確に位置付けた個別の指導計画に基づく自立活動」

提案発表者 宮崎県立日南くろしお支援学校 教諭 米良 航

### (3) 知的障がい教育研究部会研究大会の開催

- 隔年開催のため、本年度の開催はなし

## 3 主な活動の成果

今年度もオンラインで年3回の理事会を実施した。研究大会については、令和2年度から研究大会が隔年開催になっており、県北部（延岡・西臼杵・日向）、県西部（都北・西諸）、県南部（日南・串間）、県中部（宮崎・東諸・東児湯・西都）の各特別支援学校が担当校として研究大会の運営を行っている。今年度は、次年度の第13回宮崎県特別支援教育研究連合知的障がい教育研究部会研究大会「日南大会」に向けて、担当の県立日南くろしお支援学校を中心に準備を進めている。11月に実施した第2回理事会において、日南くろしお支援学校が次年度研究大会の概要説明を行い、開催方法や内容等についての検討を行った。次年度研究大会のスムーズな運営、大会の充実に向けて、今後も本部会事務局と研究大会担当校とで連携を図りながら準備を進めていきたい。

## 肢体不自由教育研究部会

### 1 研究主題

新しい時代の肢体不自由教育の充実を目指して

### 2 主な研究・活動の内容

#### (1) 活動内容

本部会は、清武せいりゅう支援学校と延岡しろやま支援学校（肢体不自由教育部門）で組織され、肢体不自由教育を推進し、会員の資質の向上を図ることを目的としている。この目的を達成するために、研究大会の開催や肢体不自由教育に関する調査研究等を行っている。

期日	肢体不自由教育研究部会事業	その他の関連事業
4月		
5月		30日（火） 九肢研（鹿児島大会）役員会及び総会＜オンライン開催＞
6月	23日（金）第1回肢体不自由教育研究部会 理事会・代議員会 ＜オンライン会議＞	
7月	28日（金） 第25回肢体不自由教育研究大会 ＜オンライン開催＞ 第2回肢体不自由教育研究大会理事会・代議員会 ＜オンライン会議＞	
8月		
9月		
10月		18日（水）～19日（木） 第60回九州地区肢体不自由教育研究大会（鹿児島大会）＜オンライン開催＞
11月		2日（木） 第69回全国肢体不自由教育研究協議会（島根大会）
12月		12月18日（月）～令和6年1月31日（水） 第69回全国肢体不自由教育研究協議会（島根大会）＜動画配信＞
1月	12日（金） 第3回肢体不自由教育部会 理事会・代議員会 ＜場所 延岡しろやま支援学校＞ 部会誌第28号発行	
2月		
3月		

#### (2) 第25回肢体不自由教育研究大会

本年度は、オンラインによる研究大会を実施した。昨年度のアンケートより学びたいというニーズの高かった障がいの重い子供の教科学習について、福岡大学人文学部教授の徳永豊先生に講話をしていただいた。オンラインで講師と受講者の各会場を中継し、本会の会員97名に加え、他

の特別支援学校職員7名、公立小中学校職員7名、合計111名が参加した。また、オンデマンド配信を行い、研究大会当日、参加が難しかった職員に向けて研修する機会を設定した。

### 3 主な研究成果

両校以外の県内特別支援学校や小中学校にも案内要項を配布したことで、肢体不自由教育の理解・啓発にもつながった。また、オンデマンド配信を行ったことで、より多くの職員が肢体不自由教育の専門性を高める機会を得ることができた。それぞれに、明日からの授業のヒントを得ることができた充実した内容の研究大会となった。また夏季休業中には、研究大会で学んだことを実践し、児童生徒の実態把握に努め、実態にあった授業を計画するなど、研究大会の学びが肢体不自由教育の専門性の向上の一助となった。

また、専門性の向上に向けて、児童生徒のための教材の購入等、肢体不自由教育の充実を図ることができた。今後も助成金なども計画的に運用し、職員の資質向上および児童生徒の日々の教育の充実を目指した専門性の向上に努めていきたい。

今後も新しい時代に対応した肢体不自由教育の充実を図っていくため、ICTのさらなる活用を実施していくとともに、肢体不自由教育のセンター的機能の役割を担うべく、引き続き小中学校等にも理解・啓発を促していきたい。

#### 【研究大会の様子】



## 令和5年度 病弱教育研究部会

### 1 研究主題（テーマ）

病弱特別支援学校における個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて

### 2 活動内容

#### (1) 年間活動報告

期 日	事 業 内 容
5月上旬	病弱教育研究部会理事会・総会
5月～9月	理論研修・講演会参加 特別支援教育総論・令和の日本型学校教育 学習につまずきを抱える児童生徒の理解と具体的な支援の方法 先進校の事例共有
8月24日	全病連福岡大会（病弱教育研究部会 夏期研修会として参加）
9月	理論研修 先進校の事例共有等
10月～1月	グループ研修 「個別最適な学びと協働的な学びについて」意見交換、教育実践、報告書作成 実践発表
2月中旬	病弱研究部会理事会

#### (2) 病弱教育研究部会夏期研修会（宮崎県特別支援教育研究連合研究大会分科会として開催）

本年度は、全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会と九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会を併催とする形で、福岡県で開催され、分科会では、宮崎県から実践発表を行った。そのため、今年度は、本部会独自の研修会を行わず、福岡大会へ会員が全員参加する形とした。

### 3 主な研究の成果

「病弱特別支援学校における個別最適な学びと共同的な学びの実現に向けて」というテーマを掲げて3か年計画で研究を進めていく1年目である。そのため、本年度は、中央教育審議会答申に2020年代を通じて実現を目指す「令和の日本型学校教育」についての理論研修を実施した。また、特に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」について、先進校の事例研究や、既研究内容の情報共有を図った。教科などのグループごとに意見交換を行い、今すぐできる「個別最適な学び」に通じる児童生徒の興味・関心を高める教材作成、ワークシートの工夫等に取り組んでいる。次年度以降は、人とのコミュニケーションに苦手意識を抱いている児童生徒達へ、探究的な学習や体験活動を体験させることを通じて、少人数での指導ではあるが充実した「協働的な学び」につながる取り組みについて進めていく予定である。また取り組みについては、地域の学校への発信についても考えていきたいと考えている。

## 情緒障がい教育研究部会

### 1 研究主題（テーマ）

「未来につなぐ特別支援教育の推進」～個別の教育的ニーズに応じた支援の在り方～

### 2 主な研究・活動の内容

#### (1) 年間活動報告

事業名	期 日	場 所	内 容
第1回研究会	4月25日(火)	宮崎南小学校	・ R5九情研実践発表に向けた検討
第2回研究会	5月11日(木)	宮崎港小学校	・ R5九情研実践発表に向けた発表資料作成
第1回事務局会	5月19日(金)	宮崎南小学校	・ 年間事業計画検討
第3回研究会	6月8日(木)	広瀬小学校	・ R5九情研実践発表リハーサル
第1回理事会	6月16日(木)	オンライン会議 (ホスト宮崎南小)	・ 総会決議(紙面決裁) ・ 年間事業計画検討
夏季研修会	7月28日(金)	オンライン	・ 実践発表
第2回事務局会	9月14日(金)	宮崎南小学校	・ 今後の事業計画等について
第4回研究会	9月22日(金)	宮崎南小学校	・ R6九情研実践発表に向けて
第5回研究会	10月27日(金)	宮崎南小学校	・ R6九情研実践発表に向けて ・ 通級指導教室担当者研修会について
通級指導教室 担当者研修会	11月17日(金)	オンライン研修会 (ホスト宮崎南小)	・ 国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター総括研究員 井上秀和先生 講演
第6回研究会	12月13日(水)	宮崎小学校	・ R6九情研実践発表に向けて ・ 授業研究会
第3回事務局会	1月16日(火)	宮崎南小学校	・ 年間事業のまとめ ・ 理事会に向けて
第7回研究会	2月6日(火)	宮崎南小学校	・ R6九情研実践発表に向けた発表資料検討
第2回理事会	2月15日(木)	オンライン会議 (ホスト宮崎南小)	・ 年間事業のまとめ ・ 理事会まとめ(次年度の引継ぎ等)
第4回事務局会	3月10日(木)	宮崎南小学校	・ 本年度の反省 ・ 次年度の事業計画について
第8回研究会	3月19日(火)	宮崎南小学校	・ R6九情研実践発表に向けた発表資料検討

### 3 主な研究成果

本部会の事務局拠点校を宮崎南小に設置し2年目となり、組織を再編しながら、円滑な部会運営を図った。参集型による会議や Zoom を使用したオンライン会議等、両方の良さを生かしたハイブリッドによる研修会などを開催した。

#### (1) 成果

今年度の夏季研修は、他の研究部会と合同で研修会を開催した。今年度、第51回九州地区情緒障害教育研究会「長崎大会」のLD・ADHD分科会の実践発表者である、広瀬小学校 白石千絵教諭の実践発表を行い、児童への効果的な支援の在り方について、研修を深めることができた。

また、令和6年度、第52回九州地区情緒障害教育研究会「佐賀大会」の自閉スペクトラム症分科会の実践発表者である、宮崎小学校 小野友香教諭の授業研究会や研究実践の支援として研究会を行った。

さらに、通級指導教室担当者研修会(オンライン)を開催し、国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター総括研究員である井上秀和先生に通級による指導の在り方や先行事例などの講演をしていただき、大変好評であった。

#### (2) 課題

自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍する児童生徒は年々増加傾向にあり、多様化する教育的ニーズへの対応がより一層必要となっている。また、通常の学級に在籍する児童生徒の指導の困難さも増し、通級による指導を必要としている割合がさらに高まってきている。今後も通級指導教室の増設に合わせて、より高い専門性をもった教員も求められる。今後も研修を通して、教員の専門性を高め、指導力の向上を図るとともに、保護者や関係機関との具体的な連携についても、さらに取組を進める必要がある。

# 令和5年度 難聴・言語障がい教育研究部会 活動報告

## 1 研究主題

「子どもや保護者の多岐にわたる教育的ニーズに応える支援・指導の在り方  
～ 人と関わる力を高める支援を通して ～」

## 2 活動内容

期日	活動の概要
5月26日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県難言研総会、専門部会（引継ぎ）</li> <li>・ 令和5年度 九難言長崎大会・全難言埼玉大会発表検討会</li> <li>・ 専門部会（今年度の計画）、全体会</li> </ul>
6月30日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和5年度 九難言長崎大会発表 令和6年度 九難言沖縄大会発表検討会</li> <li>・ 講義「小・中学校の通常学級における聞こえに困難のある子どもへの支援」 講師：さくら聴覚支援学校 高橋 直樹 指導教諭</li> <li>・ 専門部会、全体会</li> </ul>
7月27日(木) 7月28日(金)	第52回 全国公立難聴・言語障害研究協議会 全国大会 第55回 全国情緒障害教育研究協議会 全国大会 埼玉大会 『彩～豊かな学びと共生社会の実現を目指して～』 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2分科会 「構音障害」に関する指導 「ことばで表現することが上手なAさんから学んだ自己肯定感を高める構音指導」 都城市立明道小学校 春山 咲希子 教諭</li> </ul>
8月3日(木) 8月4日(金)	第47回九州地区難聴・言語障害教育研究会 長崎大会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 記念講演「もう迷わない！ことばの教室の吃音指導」 講師：九州大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 医師 菊池 良和 先生</li> <li>・ 第5分科会「連携」提案 小林市立小林小学校 三浦 弘子 教諭</li> </ul>
10月24日(火)	学校行事、対外行事が重なり、日程調整が困難なため、研修会中止
12月7日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義 「言語障害教育担当者として大切にしたいこと」 講師：国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員 牧野 泰美先生</li> <li>・ 全難言埼玉大会・九難言長崎大会報告</li> <li>・ 令和6年度九難言沖縄大会発表検討会</li> <li>・ 専門部会、全体会</li> </ul>
2月9日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和6年度九難言沖縄大会発表検討会</li> <li>・ 令和7年度九難言熊本大会発表について</li> <li>・ 活動総括と次年度に向けての協議                      ・ 実践事例集製本</li> <li>・ 専門部会及び協議</li> </ul>

## 3 主な研究成果

### (1) 成果

本年度は、社会全体がコロナウイルス感染症蔓延前の状態に戻る中、全ての研修会を対面で行うことができた。本年度も、前年度に引き続き、講義を実施するとともに、会員同士の協議、情報交換も行うことができ、日頃の悩みや疑問の解決につながった。

第52回全国公立難聴・言語障害研究協議会埼玉大会、第46回九州大会難聴・言語障害教育研究会長崎大会も開催され、本県からも実践発表を行うことができた。研修会で宮崎県代表者の研究内容を確認し、全体で研修を深めることができた。

### (2) 課題

ことば・きこえの教室、難聴学級での指導は、基本となる手立てや専門的な技術を習得した上で、一人一人の児童の実態に合わせて進める必要がある。研修会での講義や協議の中で得た知識をそれぞれが学級で実践することができた。これからも、講義や担当同士の情報交換を通して、個別に対応できる専門性の向上に結びつく研修内容を計画し、実施していきたい。しかし、本来の社会状況に戻ったことで、運動会などの学校行事、就学時検診などで日程調整が難しくなり、10月実施予定だった研修会が中止となった。研修機会の確保が、課題として残る。

## IV 宮崎県特別支援教育研究連合 各エリア部会

## 令和5年度 宮崎・東諸県エリア部会事業報告

1 研究主題（テーマ） 「教育的ニーズに応える特別支援教育の在り方について」

### 2 主な研究の内容・活動の内容

(1) 組織 ～ 宮崎地区特別支援教育研究会と東諸県地区特別支援教育研究会、宮崎市内の特別支援学校5校（明星視覚支援学校、赤江まつばら支援学校、みやざき中央支援学級、みなみのかぜ支援学校、清武せいりゅう支援学校）

#### (2) 活動計画

期 日	事業名	活動の内容	会 場
6月13日午後	◆県特研連宮崎・東諸県エリア部会 第1回役員会	・令和4年度の活動報告 ・令和5年度の計画・予算検討	ZOOM
7月28日午前	◆県特研連宮崎・東諸県エリア部会 第2回役員会	・研修会の事前打ち合わせ(小中学校の役員のみ)	佐土原総合文化センター
7月28日午後	◆県特研連宮崎・東諸県エリア部会 第1回研修会	・宮崎市小中特研部会、 県情緒障がい教育研究部会との合同研修会	佐土原総合文化センター
12月1日午後	◆県特研連宮崎・東諸県エリア部会 第3回役員会	・年間反省、事業・会計報告作成確認 ・次年度役員・役割分担等確認、事業計画案作成	佐土原総合文化センター

### 3 成果と課題

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大以前にほぼ戻り、制限なしで活動することができた。宮崎・東諸県エリア部会は、小中学校主催と特別支援学校主催を隔年で実施する形をとっており、本年度は小中学校主催で研修会を、県情緒障がい教育研究部会（県情研）、宮崎市小中特研部会と合同で実施した。前半は、県情研の今年度の九州大会の事前発表を行い、後半はテーマごとに分かれて、情報交換会を実施した。特別支援学級担当の先生方は一人で悩みながら日々の教育活動を行っており、日頃の悩みやいろいろな実践を聞く機会となり、とても有意義な時間となった。

来年度は、みなみのかぜ支援学校での研修会の予定である。

## 日南・串間エリア部会

### 1 研究主題

特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対応するための専門的指導力の向上と小・中学校等における特別支援教育の充実

### 2 活動内容

期 日	活 動 内 容	場 所
5月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1回日南・串間エリア部会役員会</li> <li>・ 総会、研修会について</li> <li>・ 昨年度事業報告</li> <li>・ 今年度事業計画及び予算案について</li> </ul>	南郷 小学校
6月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第2回日南・串間エリア部会役員会</li> <li>・ 令和5年度日南・串間エリア部会について</li> <li>・ 主な事業内容について</li> <li>・ 今年度の日南・串間エリア部会総会について</li> </ul>	南郷 小学校
8月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和5年度日南・串間エリア部会総会、研修会前日準備</li> </ul>	日南くろ しお支援 学校
8月2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和5年度日南・串間エリア部会総会、研修会</li> <li>・ 日南・串間エリア部会総会</li> <li>・ 研修会（講演会）※ ZOOMによる研修 演題 「行動分析学に基づく行動問題のある児童生徒への支援方法」 講師 宮崎大学教育学部 半田 健 准教授</li> </ul>	日南くろ しお支援 学校及び 各学校
11月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第3回日南・串間エリア部会役員会</li> <li>・ 研修会アンケート結果について</li> <li>・ 教材購入、活用集作成について</li> <li>・ 研修費の受領</li> </ul>	南郷 小学校
2月予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第4回日南・串間エリア部会役員会</li> <li>・ 活動内容、会誌、会計報告</li> <li>・ 令和6年度日南・串間エリア部会の活動について</li> </ul>	南郷 小学校

※ 12月1日 九特連福岡大会に ZOOM で参加

### 3 主な研究成果

本年度の総会・研修会は日南くろしお支援学校の食堂を会場とし、支援学校の会員は会場で、日南市と串間市の会員はそれぞれの学校での ZOOM 配信で行った。研修会では、宮崎大学の半田健准教授に「行動分析学に基づく行動問題のある児童生徒への支援方法」と題して講演していただいた。今回は、通常学級の中にも支援を必要とする児童生徒が在籍し、どのような支援を行えばよいか悩んでおられる先生方も多いという現状から講演内容を設定し、会員以外の先生方にも参加していただいたり、録画データを視聴して校内研修でも活用したりできるようにした。講演では、具体的な事例を挙げたり、演習を取り入れたりしていただいたことでより理解が深まったようである。

今後は、研修会で学んだことを各学校で実践するだけでなく、今年度作成予定の教材活用集を参考に支援の充実を図っていきたい。

## 西都・児湯エリア部会

### 1 研究主題（テーマ）

「 一人一人の教育的ニーズに応え、持てる力を高める特別支援教育の充実 」

### 2 主な活動内容

(1) 年間活動報告

- ① 役員会（年2回）運営及び会計業務
- ② 令和5年度宮崎県特別支援教育研究連合西都児湯エリア部会の企画
- ③ 令和6年度宮崎県特別支援教育研究連合西都児湯エリア部会の計画・検討

月	日	会議及び活動内容	県特研連関係
3	末	・事務局引継ぎ	
4	下旬	・第1回役員会の内容検討	
5	30		・第1回事務局会及び事務局連絡会 (オンライン)
6	6	第1回役員会 ・令和5年度役員の確認 ・令和4年度事業報告、収支決算報告 ・部会会則及び部会の運営に関する確認 ・令和5年度事業計画、収支予算案審議 ・令和5年度研究大会に関する検討	
8	7	西都・児湯エ リア部会研究 大会 (台風のため 中止)	<研究発表> ○ 県立児湯るびなす支援学校 高橋 美百 指導教諭 <講演> ○ 都城市立沖水小学校 石本 隆士 指導教諭
12	下旬	・令和5年度収支決算・会計監査	
1			・第2回事務局会
2	15	第2回役員会 ・令和5年度事業報告、収支決算報告審議 ・令和6年度事業計画案、収支予算案審議 ・西都・児湯エリア部会の運営に関する検討 ・令和6年度役員の確認 ・令和5年度宮崎県特別支援教育研究連合研 究大会課題まとめ	
2			・第3回事務局会及び事務局連絡会
3	末	・事務局引き継ぎ	

### 3 主な研究成果と課題

8月の西都・児湯エリア研究大会が台風により中止になったため、研修の機会が得られなかった。県特研連の組織改編を踏まえ、次年度以降の西都・児湯エリア部会の運営や研究大会の在り方について熟考していく必要がある。役員会での審議内容については事務局から各地区へ早めに連絡し、協議できるようにすることが課題である。

## 都城・北諸県エリア部会

### 1 研究主題（テーマ）

「小中学校における実態に応じた指導はどうあればよいか」

### 2 活動報告

#### (1) 年間活動報告

月	日	会の内容	場所
5		○ 支援学級の調査（事務局）	都城市立東小学校
6	1（木）	○ 事務局・役員会 ① 令和5年度総会資料について ② 各地区役員引き継ぎ ③ 事業計画	都城市立祝吉小学校
7	10（月）	○ 令和5年度第1回総会	早水体育文化センター
8		○ 特別支援教育に関する実態調査（研修部）	Google フォーム利用
10	20（金）	○ 合同作品展に向けての役員会 ・事前打ち合わせ	都城市立祝吉小学校
11	16（木）	○ 授業研究会 ・実践報告、協議、連絡	都城市立姫城中学校
1	18（木） 19（金）～ 22（月）	○ 合同作品展前日準備 ○ 合同作品展 ○ 合同作品展・作品撤去	ウェルネス交流プラザ
2		○ 第2回理事会・事務局会 ・年間活動の反省及び次年度に向けての協議 ○ 第2回総会 ・本年度のまとめ、課題の共有	都城市立祝吉小学校

### 3 主な研究成果と課題

#### (1) 成果

- 市町合同の研究会や総会を開催し、情報の共有や協議ができた。
- 次年度の夏季研修の内容をニーズに合ったものにするため、本年度はアンケートを利用して地区内の特別支援教育に関する調査を実施し、集約・共有を行った。
- 授業研究会では、自立活動や生活単元学習の実践報告がなされ、指導についての情報共有ができた。協議では、小・中学校と障がい種別に分かれて、日頃の学習の進め方などについて意見交換を行うことができた。

#### (2) 課題

- 実態調査から、小中学校の先生方が担当の児童生徒の学習指導について課題を抱えていることが分かった。また、自立活動や生活単元学習や日常指導についての悩みも多く上がっていた。悩みや課題の解決につながる研修会や講習会等を計画していく必要がある。
- 役員や係分担ができないまま新年度を迎えるため、引継ぎや打ち合わせの開催が難しかった。本年度のうちに課題となる点をまとめ、次年度の計画の見通しがもてるように努めたい。

## 小林・西諸県エリア部会

### 1 研究主題

「児童・生徒の実態に即した効果的な指導はどうあればよいか」

### 2 活動内容

期日（曜日）	事業内容	場所
4月24日（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1回研修会（総会）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業計画案及び予算案審議</li> <li>・ 役員選出（西諸特研役員）</li> </ul> </li> <li>○ 行事・活動の見直し案の承認</li> <li>○ 引継ぎ</li> </ul>	小林中央公民館
7月7日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1回役員会               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業計画確認</li> <li>・ 第1回役員会</li> </ul> </li> <li>※ 県特研連 小林・西諸県エリア部会の活動に向けての提案</li> </ul>	永久津小学校
7月27日（木）	○ 西諸県地区特別支援教育研究会と小林こすもす支援学校との第1回代表者協議	小林こすもす支援学校
9月12日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第2回役員会               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育講演会の役割分担、準備</li> </ul> </li> </ul>	小林中央公民館
11月28日（火）	○ 第3回役員会	小林市民会館
12月12日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1回研修会               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育講演会</li> </ul> </li> </ul>	小林市民会館
2月中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 西諸県地区特別支援教育研究会と小林こすもす支援学校との第2回代表者協議               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次年度の活動計画の協議</li> </ul> </li> </ul>	小林こすもす支援学校高等部
3月5日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第4回役員会               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本年度反省並びに次年度計画案検討</li> </ul> </li> </ul>	永久津小学校

### 3 本ブロック会の成果と課題

#### （1）成果

- ア 12月12日（火）に、教育講演会を行った。講師には、小林市にある fine.lab の代表である森 億先生にお願いした。演題は、「自立ある教師生活を送るための脳活用術」とし、2時間の講演をして頂いた。子供との関係性がうまく構築できずに悩んでいた、子供の力を引き出せずに悩んでいた、子供に対して「怒る」「ペナルティー」しか指導の方法を知らず悩んでいる教師に対して、示唆を与えていただき、脳の特性と関連づけながら分かりやすく教えて頂いた。
- イ 西諸県地区特別支援教育研究会と小林・西諸県エリア部会のつながりを作るために、小林こすもす支援学校と協議を重ねていった。協議の中で来年度から、小中学校の特別支援教育担当者と、小林こすもす支援学校との夏季休業中の研究会を実施することが決まっている。また、それぞれの研修会に zoom 参加ができないかを協議中である。

#### （2）課題

特別支援教育研究会の本来の意義に立ち返り「会員の資質向上」を目指し、小林市にあるこばやしこすもす支援学校と協力するために地盤固めを行っている。実際には来年度からの活動になるが、来年度からの活動が計画的に実施できるように準備を進めていきたい。

## 日向・東臼杵エリア部会

1 研究主題（テーマ） 「個に応じた教育的ニーズに応える特別支援教育の充実」

### 2 主な研究・活動の内容

(1) 組織

日向・東臼杵地区（日向、門川、入郷）の小・中学校の学校長、及び特別支援学級職員の  
 会員、日向ひまわり支援学校長、及び職員

(2) 年間活動報告

期日	事業名	主な内容	場所
7月3日（月）	日向・東臼杵エリア部 会役員会	令和4年度事業報告 令和4年度決算報告・監査報告 令和5年度事業計画案 令和5年度予算案 県特研連組織、エリア部会規約他	日向ひまわり 支援学校 (対面・オンライン)
7月28日（金）	エリア部会研修①	外部講師を招聘しての研修 「特別支援教育における ICT 活用の考 え方について」 講師：兵庫教育大学 小川修史先生	日向市 中央公民館
12月13日（水）	エリア部会研修② 日向ひまわり支援学校 研究公開	県事業による研究公開の実施 未来を拓く！特別支援学校 「自立と社会参加」推進事業 ICTを活用した授業に関する研究	日向ひまわり 支援学校
令和6年 1月12日（金） ～19日（金）	なかよしアート展	各学校の児童生徒の作品紹介 学校紹介パネル展示	日向市 中央公民館
2月26日（月）	日向・東臼杵 エリア部会役員会	令和5年度事業報告 令和5年度決算報告・監査報告 令和6年度に向けて 令和6年予算案、他	日向ひまわり 支援学校

### 3 本エリア部会の成果と課題

(1) 成果

- エリア内の課題に着目した講師選定を行い、兵庫教育大学准教授 小川修史氏をお招きして、5年ぶりの対面研修を実施した。読み書きに困難がある子どもの疑似体験やスマートフォンを使ったチャットトークもあり、充実した研修となった。ICT活用を苦手と感じている参加者も多く見られたが、講演後は前向きな感想も聞かれ有意義な講演会となった。
- 事務局であるひまわり支援学校で開催された研究公開では、約70名の参加者の内、本エリア部会からは22名の参加があり、特別支援教育の学びの場となった。小中学校の参加者からは、公開授業で授業の実際を見学したり、ポスター発表で様々な実践を知ったりすることができたという意見が多数聞かれた。

(2) 課題

- 支援学校と小中学校との連絡手段が電話やFAXに限られるため、小中学校の代表者にメールを送信し、そこからの連絡となるため、役員会や研修会の周知案内に時間を要した。本年度、県内全ての校種でGoogleが整備されたことで、今後はそれらを有効に活用しながら進めていきたい。
- 年度が変わると支援学級の担当や役員の入替えが多いため、十分な引き継ぎが困難であった。

## 延岡・西臼杵エリア部会

### 1 研究主題（テーマ）

児童生徒の生きる力を育む指導の在り方  
～教育的ニーズに応える特別支援教育の在り方について～

### 2 活動内容

期 日	事 業 名	主 な 内 容
6月16日（金）	第1回事務局会	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度の事業報告、決算報告</li> <li>令和5年度活動方針・事業計画、予算案について</li> <li>総会、夏季研修会について</li> </ul>
8月 4日（金）	総会 （書面議決）	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度事業報告、決算報告</li> <li>本年度事業計画、予算案等</li> </ul>
8月28日（月）	夏季研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>講演 「特別支援教育に関わって ～具体的な事例を通して思うこと～」</li> <li>講師 延岡市立延岡小学校 宮田雅子氏</li> </ul>
10月 3日（火）	次年度研究大会 第1回実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ、講師、会場、日程等概要提案</li> <li>今後の進め方説明</li> </ul>
10月13日（金）	合同作品展 運営委員会①	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度からの引継ぎ事項の確認</li> <li>役割分担の確認等</li> </ul>
11月21日（火）	合同作品展 実行委員会①	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度からの引継ぎ事項の確認</li> <li>係分担・係の内容の確認等</li> </ul>
12月 5日（火）	次年度研究大会 第2回実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>一次案内の提案</li> <li>役割分担決定</li> <li>開会行事、閉会行事について</li> </ul>
1月13日（土） ～14日（日）	合同作品展	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校の幼児児童生徒の作品展</li> </ul>
1月16日（火）	合同作品展 実行委員会②	<ul style="list-style-type: none"> <li>各係からの反省</li> <li>次年度に向けて</li> </ul>
2月下旬～3月上旬	第2回事務局会	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動総括と次年度の活動計画について</li> <li>次年度事務局の確認及び引継事項の確認等</li> </ul>
3月 5日（火）	次年度研究大会 第3回実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>進捗状況確認</li> <li>決定事項及び検討事項の共有</li> </ul>

### 3 本エリア部会の成果と課題

今年度の夏季研修会は、講師に延岡市立延岡小学校エリアコーディネーター宮田雅子氏をお招きし、「特別支援教育に関わって ～具体的な事例を通して思うこと～」という演題のもと、講演をしていただいた。「具体的な実践事例がたくさんあり大変参考になった」「ハンドブックを今後より積極的に活用していきたい」などの感想をいただくことができた。本エリアでは、2学期開始時期が地区によって異なるため、夏季研修会の実施日の調整が課題である。

また、合同作品展は、カルチャープラザ延岡を会場とし、部会所属校に在籍する幼児児童生徒が作成した作品を2日間にわたって掲示する予定である。前年度の反省を受けて、今年度、延岡にある九州保健福祉大学（2024年4月より九州医療科学大学に名称変更）へ合同作品展についての広報活動も行った。今後は、他県の例を参考に、大学との連携も視野に入れてどう活動していくかが課題である。

さらに、次年度は延岡・西臼杵エリア部会が主催となり、研究大会が開催される。中核となる県立延岡しろやま支援学校と小中学校がしっかりと連携を図り、より充実した研究大会となるよう計画的に運営を進めていきたい。

V 令和5年度 全国大会報告

## 第98回 令和5年度全日本盲学校教育研究会・北海道大会

### 1 大会概要

- (1) 大会主題 「新しい時代の創り手を育む」～持続可能な令和の日本型盲学校教育の構築～
- (2) 期 日 令和5年7月26日(月)～7月28日(火)
- (3) 場所(会場) 北海道札幌視覚支援学校(現地)、オンライン

### 2 内 容

- (1) 全体会・講演
  - ① 演題 「ライフ・イズ・クライミング」  
講師 NPO 法人モンキーマジック代表理事  
一般社団法人 日本パラクライミング協会共同代表 小林 幸一郎 氏
- (2) 分科会
  - ① 研究発表(発表者35名) 動画形式の音声付きパワーポイントデータ
    - ア 第1分科会 学習指導1(9名)
    - イ 第2分科会 学習指導2(9名)
    - ウ 第3分科会 生活(12名)
    - エ 第4分科会 特別支援(5名)
    - オ 第5分科会 理療(11名)

### 3 報 告

今年度の全日本盲学校教育研究大会は新型コロナウイルス感染拡大を受け、発表者と助言者、来賓は現地参集(約130名)、ほか一般参加者(約1,550名)はZoomでのオンライン参加であった。各分科会でZoomのIDを受け取り、ブレイクアウトで分かれて参加した。

例年であれば学校から出張として3名ほどが研究大会に参加していたが、今回はオンラインがあったため、団体として登録し、職員全員で視聴した。視覚障がい関係の研究大会は限られているため、多くの職員が講演や発表を視聴できたことは貴重であった。また、次年度は熊本県立盲学校が主管校となるため、九州圏内の盲学校に動員がかかる可能性があり、運営側として全日盲大会の全体像を掴むためにも、よい機会となった。質疑応答の際には情報交換ができるなど充実した場となっていた。

## 第 57 回全日本聾教育研究大会（奈良大会）

### 1 大会概要

- (1) 大会主題 「ゆたかな知恵を育むろう教育」
- (2) 期 日 令和 5 年 10 月 19 日（木）、20 日（金）
- (3) 場所（会場） 奈良県立ろう学校、やまと郡山城ホール、奈良春日野国際フォーラム豊別館  
ホテルリガーレ春日野

### 2 内容

- (1) 公開授業・指定授業  
早期教育部（動画）、幼稚部・小学部・中学部・高等部（全学年公開）、寄宿舎（施設公開）
- (2) 授業研究分科会  
幼稚部（年長 5 歳児）・小学部（5 年・国語）・中学部（3 年・道徳）・高等部（2 年・国語）
- (3) 記念講演 「多様性を大切にしよう教育を目指して」  
武居 渡氏（金沢大学人間社会研究域学校教育系教授）
- (4) 研究協議分科会  
第 7 分科会（自立活動 I 障害認識など）、第 9 分科会（センター的機能）、  
第 10 分科会（進路・キャリア教育）

### 3 報告

公開授業・指定授業は、3名の参加者がそれぞれ奈良県立ろう学校の全学年に分かれ参観した。卒業生の進路先が、大学・企業・福祉的就労など幅広く、教師の専門性の高さを感じた。特に、教師と幼児児童生徒、幼児児童生徒同士の手話でのコミュニケーションが活発で活気に溢れていた。

記念公演では、聞こえない子供たちの成長に伴って考えていくべきこと 3 つの話が印象深かった。幼児期は、分かり合えるコミュニケーションと他者への信頼感（分かる経験と信じられる他者の存在）がとても大切で、その上に学齢期に学力と言語力（聴者が圧倒的多数である社会で生きていくための力）を育てる。青年期は、障がい認識と自己実現（自分は  $1-\alpha$  なのではなく 1 だと思えること）を積み上げることが大切だと話された。

第 7 分科会「自立活動 I」では、各校での障がい認識における取り組みについて実践発表があった。学習を進めるにあたって、大阪府立聴覚支援学校が作成している『キャリア教育プログラム』は領域毎に学習する時期や内容、目標も明記されており、新転任の先生もすぐに取り組めるよう工夫がなされていた。

第 9 分科会「センター的機能」では、大阪府立だいせん聴覚高等支援学校が、国や大学と連携して学校経営推進事業「VR/ARを活用した授業実践」を行っていた。聞こえない生徒の立場からどのような配慮が必要か、生徒の困りはどんなことか、指示が通らないことの大変さなど視覚的に学ぶことができる体験プログラムを開発して、地域の学校等の研修会に生かしていた。今後、ICTの普及により、本県においても導入に向けた研究を行っていくことが必要であると感じた。

第 10 分科会「進路・キャリア教育」では、大阪府立堺聴覚支援学校が独自に生徒の「キャリア教育つきたい力（マトリクス）」を策定し、評価をレーダーチャートとして視覚化、情報は共有し課題を引き継ぐ取り組みは興味深かった。また、福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校の独自の『進路ノート～キャリア・パスポート』の一部抜粋資料も今後の参考になると感じた。

## 第62回全日本特別支援教育研究連盟全国大会「徳島大会」

### 1 大会概要

- (1) 大会主題 「共生社会の中で、夢や志をもち、主体的に活躍する子どもたち」  
～多様な個性が輝く特別支援教育を目指して～

### 2 内 容

- (1) 記念講演  
演題：「共生社会の形成に向けたこれからの地域協働活動とキャリア発達支援」  
～ヒト・コト・モノのつながりと対話を再考する～  
講師： 弘前大学大学院 教授 菊池 一文 氏
- (2) 研究報告  
三木安正記念研究奨励賞受賞者  
秋田県立稲川支援学校 教諭 阿部 哲哉 氏
- (3) 分科会 (全15分科会)

	分科会名	分科会テーマ	提案者
1	早期からの特別支援教育	一人一人のニーズに応じた早期支援と幼保小の連携	愛知県・徳島県
2	通常の学級における合理的配慮と授業改善	学級や学校全体で取り組む特別支援教育	愛媛県・徳島県
3	高等学校における特別支援教育	高等学校における特別支援教育の展開	鳥取県・徳島県
4	通級による指導	多様な障がい特性に応じた効果的な通級指導の在り方	島根県・徳島県
5	教科別の指導	特別支援教育における教科別の指導の在り方	広島県・徳島県
6	各教科等を合わせた指導 (生単・日生)	社会で活躍する力の育成を目指した日常生活の指導・生活単元学習	香川県・徳島県
7	各教科等を合わせた指導 (作業)	社会で活躍する力の育成を目指した作業学習	岡山県・徳島県
8	自立活動	一人一人の教育的ニーズに応じた自立活動の指導	高知県・徳島県
9	交流及び共同学習	共生社会の実現に向けた交流及び共同学習	北海道・徳島県
10	健康・安全教育	命を大切にできる力を育む健康・安全教育	東京都・徳島県
11	キャリア教育	自立と社会参加に向けたキャリア教育	福岡県・徳島県
12	学校経営	地域とつながる学校経営の在り方	和歌山県・徳島県
13	障がい者スポーツ・文化芸術活動	多様な個性を生かした生涯にわたる豊かな生活の実現を目指した取組	山口県・徳島県
14	就労支援	連携・協働に基づく就労支援	群馬県・徳島県
15	地域と連携	特別支援教育における地域連携の在り方	秋田県・徳島県

### 3 報 告

今年度の本大会は、4年ぶりに参集型の大会となったこともあり、850人というたくさんの参加者があったということだ。1日目の菊池一文教授の講演が特に印象に残った。これまで行ってきた特別支援学校での教育をキャリア教育の視点から整理することができ、今後の方向性を確認することができた。2日目の分科会では、会場が分かれ、全15もの分科会があり、提案発表・指導助言が行われた。午前中に提案を受け、午後からは討議の柱がそれぞれに設けられ、各県の先生方との意見交換や情報共有をすることができ、大変有意義な分科会となった。次回開催は、福井県である。

# 第 69 回全国肢体不自由教育研究協議会全国大会 島根大会

## 1 大会概要

- (1) 大会主題 「肢体不自由教育の充実をととした共生社会形成の推進」  
～個別最適な学びと協働的な学びの充実をめざして～
- (2) 期 日 会場集合 令和5年11月2日(木)  
動画配信 令和5年12月18日(月)～令和6年1月31日(水)
- (3) 開催形式〈会場集合〉  
島根県民会館  
〈動画配信〉  
第69回全国肢体不自由教育研究協議会島根大会 ホームページ

## 2 内容

- (1) 全体会
- ・全肢長挨拶 ・実行委員長挨拶 ・来賓祝辞
  - ・文部科学省講話  
演題：「肢体不自由教育に期待すること」  
講師：文部科学省初等中等教育局視学官（併）特別支援教育課特別支援教育調査官  
菅野 和彦 氏
  - ・記念講演講話  
演題：「ウェルビーイングの視点で考えるこれからの肢体不自由教育」  
講師：島根県立大学人間文化学部 教授 西村 健一 氏
- (2) 第1分科会～第10分科会

分科会	内容
第1分科会	授業改善
第2分科会	学習指導Ⅰ（準ずる教育課程）
第3分科会	学習指導Ⅱ（知的代替の教育課程）
第4分科会	学習指導Ⅲ（自立活動を主とする教育程）
第5分科会	自立活動
第6分科会	健康教育
第7分科会	情報教育・支援機器の活用
第8分科会	生活指導・寄宿舎教育
第9分科会	キャリア教育及び進路活動
第10分科会	地域との連携

- ・提案者からの提案発表 各分科会2事例 音声付きプレゼン・動画等による報告
- ・助言者からの指導助言 動画等による指導助言

### 【ポスター発表】

- ・ホームページ上でのポスター(PDF)発表

## 3 報告

本大会は、会場において開会式・全体会等、大会行事の一部が開催され、後日その内容と事前撮影された動画を大会ホームページ上にアクセスして見る形で実施された。

記念講演では、島根県立大学教授の西村健一氏が、「ウェルビーイングの視点で考えるこれからの肢体不自由教育」と題して講演をされた。「これからの肢体不自由教育を考えていくときに重要となるのは、持続可能な社会の創り手を育成していくこと、つまり、将来に向けた前向きな意欲を持つ人を育てることが重要である。」「教育振興基本計画の実現に向けて成功・失敗経験を繰り返しながら挑戦していくこと、他者とつながりながらウェルビーイングの実現に向かっていくことが大事である。」「『不安』に対する支援方略が必要であり、安心な状況作り（人生に彩を添える状況）が必要である。」といった内容であった。

文部科学省講話では、「肢体不自由教育へ期待すること」ということで、「教育課程の不断の見直しと各種計画とのつながり」、「単元や題材のまとまりを見通した豊かな授業づくり」、「ICT を効果的に使用した授業実践」を行い、教師でなければできない業務である「授業と研究の活性化」を期待するという内容であった。

分科会は、各分科会 2 つずつの事例報告の動画と、助言者からの指導助言を視聴することができ、ポスター発表では計 55 のポスターを閲覧することができた。

Web 開催となったことから、学校や自宅で動画や資料を視聴・閲覧することができ、全国の多くの参加者にとって、大変有意義な大会となった。

<b>第64回 全国病弱虚弱教育研究協議会 福岡大会</b> <b>第63回 九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 福岡大会</b>
--

## 1 大会概要

- (1) 大会主題 「児童生徒個々のニーズに応じた、生きる力を育む病弱教育の在り方」  
～ 子どもたちに 学びの多様性を ～
- (2) 期 日 令和5年8月10日(木)～31日(木)
- (3) 方 法 動画および電子文書の配信

## 2 内 容

- (1) 全体会
- ① 全病連理事長あいさつ
  - ② 主管校校長あいさつ
- (2) 記念講演  
演題「ひきこもりの多面的理解に基づく支援～家族支援からメタバース支援まで～」  
講師 九州大学大学院医学研究院 精神病態医学 加藤 隆弘 氏
- (3) 特別講演  
演題「病弱教育のさらなる充実に向けて」  
講師 文部科学省 初等中等教育局特別支援教育課調査官 相原 千絵氏
- (4) 特別企画  
講師 脳性まひコミカルプロマジシャン Mr.Handy 森 裕生氏
- (5) 分科会

分科会名	担当提言校	指導助言者
①教科等の指導	宮城県立拓桃支援学校 長崎県立大村特別支援学校	関西学院大学教育学部 教授 丹羽 登 氏
②自立活動の指導	愛媛県立しげのぶ特別支援学校 北九州市立小倉総合特別支援学校	特総研インクルーシブ教育システム推進センター 主任研究員 土屋 忠之 氏
③キャリア教育・進路指導、高校生支援	三重県立かがやき特別支援学校 長崎県立桜が丘特別支援学校	京都女子大学発達教育学部 教授 滝川 国芳 氏
④センター的役割、地域連携	静岡県立天竜特別支援学校 宮崎県立赤江まつばら支援学校	福岡こども短期大学 特任教授 武部 愛子氏
⑤PTA活動	茨城県立友部東特別支援学校 鹿児島県立加治木特別支援学校	全国病弱虚弱教育学校 PTA 連合会 事務局長 南風野 久子 氏
⑥ICT活用	大阪府立羽曳野支援学校 沖縄県立森川特別支援学校	国立高等専門学校機構熊本高等専門学校 特命教授 福島 勇 氏
⑦心身症・精神疾患のある子どもの指導	東京都立光明学園 北九州市立門司総合特別支援学校	福岡教育大学教育学部特別支援教育 ユニット准教授 深澤 美華恵 氏
⑧筋ジス・慢性疾患・脳性まひ等のある子どもの指導	秋田県立秋田きらり支援学校 福岡県立柳河特別支援学校	福岡県教育センター 主任指導主事 延命 典子 氏
⑨ベッドサイド教育・病院との連携	奈良県立奈良養護学校 大分県立別府支援学校石垣原校	福岡県教育庁教育振興部特別支援 教育課指導主事 宮城 亜樹 氏

## 3 報 告

今大会は、web上で動画や電子文書の配信での開催となった。福岡県での開催であったため、全国病弱虚弱教育研究協議会、九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会の併催の形で行われた。学校単位で申し込み、IDとパスワードの入力で、大会期間中、閲覧することができた。そのため、個人研修の一環としていつでもどこでも視聴可能で、多くの会員が大会に参加することができた。特に会員からは、九州大学大学院の加藤隆弘氏の「ひきこもりの多面的理解に基づく支援」について、の講演が参考になる話が多かったと声が上がっていた。④分科会には、本県のエリアサポート事業についての取り組みの発表を行った。

## 情緒障がい教育研究部会

### 1 研究主題（テーマ）

「未来につなぐ特別支援教育の推進」～個別の教育的ニーズに応じた支援の在り方～

### 2 主な研究・活動の内容

#### (1) 年間活動報告

事業名	期 日	場 所	内 容
第1回研究会	4月25日(火)	宮崎南小学校	・ R5九情研実践発表に向けた検討
第2回研究会	5月11日(木)	宮崎港小学校	・ R5九情研実践発表に向けた発表資料作成
第1回事務局会	5月19日(金)	宮崎南小学校	・ 年間事業計画検討
第3回研究会	6月8日(木)	広瀬小学校	・ R5九情研実践発表リハーサル
第1回理事会	6月16日(金)	オンライン会議 (ホスト宮崎南小)	・ 総会決議(紙面決裁) ・ 年間事業計画検討
夏季研修会	7月28日(金)	オンライン	・ 実践発表
第2回事務局会	9月14日(木)	宮崎南小学校	・ 今後の事業計画等について
第4回研究会	9月22日(金)	宮崎南小学校	・ R6九情研実践発表に向けて
第5回研究会	10月27日(金)	宮崎南小学校	・ R6九情研実践発表に向けて ・ 通級指導教室担当者研修会について
通級指導教室 担当者研修会	11月17日(金)	オンライン研修会 (ホスト宮崎南小)	・ 国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター総括研究員 井上秀和先生 講演
第6回研究会	12月13日(水)	宮崎小学校	・ R6九情研実践発表に向けて ・ 授業研究会
第3回事務局会	1月16日(火)	宮崎南小学校	・ 年間事業のまとめ ・ 理事会に向けて
第7回研究会	2月6日(火)	宮崎南小学校	・ R6九情研実践発表に向けた発表資料検討
第2回理事会	2月15日(木)	オンライン会議 (ホスト宮崎南小)	・ 年間事業のまとめ ・ 理事会まとめ(次年度の引継ぎ等)
第4回事務局会	3月11日(月)	宮崎南小学校	・ 本年度の反省 ・ 次年度の事業計画について
第8回研究会	3月19日(火)	宮崎南小学校	・ R6九情研実践発表に向けた発表資料検討

### 3 主な研究成果

本部会の事務局拠点校を宮崎南小に設置し2年目となり、組織を再編しながら、円滑な部会運営を図った。参集型による会議や Zoom を使用したオンライン会議等、両方の良さを生かしたハイブリッドによる研修会などを開催した。

#### (1) 成果

今年度の夏季研修は、他の研究部会と合同で研修会を開催した。今年度、第51回九州地区情緒障害教育研究会「長崎大会」のLD・ADHD分科会の実践発表者である、広瀬小学校 白石千絵教諭の実践発表を行い、児童への効果的な支援の在り方について、研修を深めることができた。

また、令和6年度、第52回九州地区情緒障害教育研究会「佐賀大会」の自閉スペクトラム症分科会の実践発表者である、宮崎小学校 小野友香教諭の授業研究会や研究実践の支援として研究会を行った。

さらに、通級指導教室担当者研修会(オンライン)を開催し、国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター総括研究員である井上秀和先生に通級による指導の在り方や先行事例などの講演をしていただき、大変好評であった。

#### (2) 課題

自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍する児童生徒は年々増加傾向にあり、多様化する教育的ニーズへの対応がより一層必要となっている。また、通常の学級に在籍する児童生徒の指導の困難さも増し、通級による指導を必要としている割合がさらに高まってきている。今後も通級指導教室の増設に合わせて、より高い専門性をもった教員が求められる。今後も研修を通して、教員の専門性を高め、指導力の向上を図るとともに、保護者や関係機関との具体的な連携についても、さらに取組を進める必要がある。

# 第 52 回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会（埼玉大会）

## 1 大会概要

- (1) 大会主題 「彩～豊かな学びと共生社会の実現を目指して～」  
副題 難言「ことばを育て、こころを育み、自己肯定感を高めるために、今できること。」
- (2) 期 日 令和5年7月27日（木）・28日（金）
- (3) 場所（会場） ソニックシティ

## 2 内 容

- (1) 記念講演 「共生社会におけるコミュニケーションのあり方—発達障害からの示唆—」  
講師 本田 秀夫 氏（信州大学医学部子どものこころの発達医学教室 教授）
- (2) 基調講演 「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方について」  
講師 堀之内 恵司 氏 科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官)
- (3) 分科会（敬称略）
  - ① 第1分科会 「聴覚障害」に関する指導・支援  
コーディネーター 澤 隆史（東京学芸大学 総合教育科学系 特別支援学講座 教授）  
実践発表 ○共生社会の形成に向けた難聴学級の取り組み  
○中学3年間の気持ちを支える指導
  - ② 第2分科会 「構音障害」に関する指導・支援  
コーディネーター 西田 立郎（言語聴覚士・元埼玉県白岡市立篠津小学校教諭）  
実践発表 ○ことばで表現することが上手な A さんから学んだ自己肯定感を高める構音指導  
（都城市立明道小学校 春山咲希子教諭）  
○笑顔かがやく ことば・きこえの教室
  - ③ 第3分科会 「吃音」に関する指導・支援  
コーディネーター 小林 宏明（金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授）  
実践発表 ○吃音がある子どもが幸せに生きるためにことばの教室でできること  
○開かれたことばの教室を目指して
  - ④ 第4分科会 「言語発達・読み書き」に関する指導・支援  
コーディネーター 海津 亜希子（明治学院大学 心理学部 教育発達学科 教授）  
実践発表 ○発達性読み書き障害が疑われる児童の支援  
○読む・書く・伝える 力がつき自己有用感が高まる指導
  - ⑤ 第5分科会 「ICT活用」の指導実践  
コーディネーター 海津 亜希子（明治学院大学 心理学部 教育発達学科 教授）  
実践発表 ○読み書き等に苦手さのある児童の支援と自ら学び生きるための教材教具としての ICT 活用  
○ICT を活用した通級指導  
○苦手があっても大丈夫！Chromebook はぼくの相棒
  - ⑥ 第6分科会 「自閉症・情緒障害」に関する指導・支援  
コーディネーター 霜田 浩信（群馬大学 共同教育学部 特別支援教育講座 教授）  
実践発表 ○自己理解の深まりと自己肯定感の高まりを目指した自立活動の授業実践  
○主体性を育てる『自立活動』へ！！

## 3 報 告

本年度の全国大会は、全難言協と全情研の合同開催で、聴覚障害・言語障害・発達障害・情緒障害の指導支援に関わる担当者の様々な専門性や、医療や福祉との連携を含めた保幼から就労までの途切れない支援などの実践事例が紹介された。また、対面参加とオンデマンド配信の視聴によるハイブリッド型の研究協議会でもあり、共生社会の実現に向けた新しい形の大会となった。記念講演、基調講演ともに子どもたちの自己肯定感・自己有用感を高め、一人一人の育ちを支える指導について考えさせる内容であった。

## VI 令和5年度 九州地区研究大会報告

# 令和5年度九州地区盲学校教育研究会

## 1 大会概要

- (1) 大会主題 令和5年度 九州地区盲学校教育研究会宮崎大会
- (2) 期 日 令和5年11月17日(金)
- (3) 会 場 宮崎県立明星視覚支援学校

## 2 内 容

- (1) 第1分科会(学習指導1)
  - ① テーマ 「視覚障がいのある幼児児童生徒の主体的な学びを育むための授業づくり」
  - ② 協議題
    - ア 表現力を高めるための指導の工夫について
    - イ 少人数における主体的・対話的な学びを引き出すための手立てについて
- (2) 第2分科会(学習指導2)
  - ① テーマ 「視覚障がい児童生徒に対する学習効果を高めるためのICT活用の在り方」
  - ② 協議題
    - ア 学習指導上、適切、効果的なICT活用について
    - イ ICT機器を活用した主体的な学習を促す工夫について
- (3) 第3分科会(生活)
  - ① テーマ 「児童生徒の自立と豊かな生活の実現を目指した生活支援」
  - ② 協議題
    - ア 学校と寄宿舎と家庭との連携について
    - イ 主体性を育む取組について
- (4) 第4分科会(特別支援)
  - ① テーマ 「視覚特別支援学校(盲学校)における自立活動の指導力向上」
  - ② 協議題
    - ア 障がいに応じた幼児児童生徒の自立活動の指導の現状と課題について
    - イ 自立活動の指導の充実や視覚障がい教育の専門性向上のための組織的な取組について
- (5) 第5分科会(理療)
  - ① テーマ 「多様化する社会のニーズに対応するための実技指導の在り方」
  - ② 協議題
    - ア 少人数化している中での生徒の技術力向上を目指す指導の工夫について
    - イ 理療科の学習(実技を含む)指導におけるICT活用の事例について

## 3 報 告

今年度は、本校が事務局を務め、現地開催となった。コロナ禍により3年間対面での実施が見送られてきたが、今回各校から多数の参加者が訪れ盛況であった。活発な質疑応答や意見交換がなされ、九州各県の視覚支援教育の現状を知る良い機会となった。一方で、オンライン開催であれば、各校からより気軽に参加できるため、今後の開催形態については継続して検討が必要である。また、九盲研大会の規約にある談話の取り扱いについても、今年度を契機に見直すこととなった。大会アンケートを実施し、各校からの意見を集約して次年度に引き継ぐ予定である。次年度は福岡県立北九州視覚特別支援学校が主管校である。

## 第 28 回九州地区聴覚障がい教育研究大会（大分大会）

### 1 大会概要

- (1) 大会主題 「自ら学ぶ力を育むための聴覚障害教育の創意工夫」  
～言語能力の育成を図り、思考力・判断力・表現力を向上させるための指導・支援～
- (2) 期 日 令和5年11月10日（金）
- (3) 場所（会場） 大分県立聾学校

### 2 内容

- (1) 公開授業  
幼稚園（年中・総合保育）、小学部（2年・国語）、  
中学部（3年・数学）、高等部（2年・地理総合）
- (2) 研究協議会・分科会  
早期教育・教科教育・キャリア教育
- (3) 記念講演 「聴覚障がい教育の現代的課題と今後の展望」  
～聴覚障がい教育の手引き（令和2年度版）と九聴研の活動から～  
阿部敬信氏（九州産業大学人間科学部子ども教育学科教授）

### 3 報告

大分県立聾学校は盲学校と隣接しており、双方の利用が可能な寄宿舍があるという環境である。

公開授業は参加者が各学部に分かれて参観した。幼稚園は「朝の活動」をとおして音声言語、手話を活発に使いながらやりとりしているのが印象的であった。この時のエピソードがのちの絵日記にも登場しており、日々の些細なやりとりが子供の中に蓄積されて力になる様を見せていただいたような気がした。中学部「数学科」は、タブレット等を活用して課題の手順やポイント、振り返りに必要なこと、考えの過程などを視覚的に共有できる授業実践であった。

分科会1では、乳幼児教育相談、幼稚園の取組について発表があった。乳幼児教育相談では、保護者がわが子と向き合い、家庭でできることを理解できるよう、連絡帳や振り返りシートを活用している例が参考になった。また支援者が、明るく母の気持ちに寄り添い、一緒に考え続けていくことで、保護者と子供との関係づくりへの一助となった例もとても印象的であった。指導助言では、「豊かな言葉」「心情」とは「認知能力」「非認知能力」ともいわれるものであり、単なる勘や経験ではなく、誰もが使える専門性として、残す仕組みや構造が必要だという説明が共感できた。

分科会2「教科教育」では、数学科、英語科といった教科でも語彙力、言語概念が基盤としてあることの重要性を感じた。どの取組も、様々な語彙の理解、言語概念があるからこそ、主体的に学び、理解につながることを強く感じた発表であった。

分科会3「キャリア教育」では、延岡しろやま支援学校よりレポート発表を行った。セルフアドボカシーの力を育てるための『キャリア教育プラン』の細目表作り、それをもとにした『自分ノート』の作成と地域の中学校での生徒主体の難聴理解啓発授業の様子について発表された。課題として、細目表については実際活用しながらよりよいものへ改善していくこと、また、『自分ノート』と『キャリアパスポート』をどのように融合させていくかということがあげられた。

記念講演では、アセスメントを実施してしっかり子供の姿をとらえることの重要性や、明晴学園の先進的な取組より、「多読」のもたらす語彙学習の効果といった紹介等が大変参考になった。

## 第57回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「福岡大会」

### 1 大会概要

- (1) 大会主題 多様な子供たちの可能性を広げる特別教育  
～教育的ニーズに応じた教育実践を通して～
- (2) 期 日 令和5年12月1日(金)
- (3) 場所(会場) オンライン (Zoom ミーティング)

### 2 内 容

- (1)
- ① 開会行事
  - ② 分科会 1・2・3・4・5・6・7
  - ③ 記念講演 演題『多様な学びの場における特別支援教育の推進』  
講師 国立大学法人 福岡教育大学大学院  
教育学研究科教職実践専攻(教職大学院)教授 牛島 玲 先生
  - ④ 閉会行事

#### 【分科会 (全7分科会)】

	分科会名	分科会テーマ	提案者
1	日常生活の指導	教科等の目標の系統性や内容の関連性を踏まえた日常生活の指導	沖縄県・佐賀県
2	生活単元学習	教科等の目標の系統性や内容の関連性を踏まえた生活単元学習	佐賀県・長崎県
3	教科別の指導	育成すべき資質・能力を踏まえた系統的で連続性のある教科別指導	長崎県・大分県
4	作業学習・進路学習	キャリア教育の視点や学部間・学校間の接続を踏まえた作業学習、進路学習	大分県・宮崎県
5	自立活動	中心課題を明確に位置付けた個別の指導計画に基づく自立活動	宮崎県・鹿児島県
6	交流及び共同学習	インクルーシブ教育システムの理念に基づく交流及び共同学習	鹿児島県・熊本県
7	人材育成	特別支援教育に係る人材の計画的な育成	熊本県・沖縄県

### 3 報 告

昨年度と同様、今回の研究大会もオンラインにて開催された。記念講演では、特別支援教育の現状を踏まえ、これからの支援学校に求められる学力、通常学級における授業づくりと合理的配慮、心のバリアフリーの育成について、分かりやすく丁寧に説明していただいた。また、分科会において、各学校や児童生徒の実態把握を行ったうえで、年間指導計画や単元別指導計画表を作成し、児童生徒の実態や願いに寄り添った学習を充実することが重要という話が多くあがっていた。来年度は、佐賀県で開催予定である。

# 第 60 回九州地区肢体不自由教育研究大会鹿児島大会

## 1 大会概要

- (1) 大会の基本テーマ  
「新しい時代の肢体不自由教育を考える」
- (2) 開催期間  
令和 5 年 10 月 18 日（水）から 11 月 1 日（水）まで
- (3) 開催形式 <Web での開催>  
第 60 回九州地区肢体不自由教育研究大会特設ホームページ

## 2 内 容

- (1) 役員会及び記念講演等
  - ①役員会：PTA 連合会 PTA 会長会 校長会 全体会（オンライン会議による実施）
  - ②記念講演（10 月 18 日から 11 月 1 日まで オンデマンド配信）  
講師：竹内 葉子 氏  
演題：「誰もが豊かに暮らす社会の実現～養護学校を卒業して社会へ出て感じたこと～」
  - ③文部科学省講話（10 月 18 日から 11 月 1 日まで オンデマンド配信）  
講師：菅野 和彦 氏  
演題：「新しい時代に向けた肢体不自由教育への期待」
  - ④学校公開（10 月 18 日から 11 月 1 日まで オンデマンド配信）  
鹿児島南特別支援学校の開校に伴う学校紹介や授業の様子
- (2) 第 1 分科会～第 7 分科会（オンライン会議による実施）

分科会	内容
第 1 分科会	教育課程・授業改善
第 2 分科会	教科指導（準ずる教育課程・下学年 / 知的代替の教育課程）
第 3 分科会	自立活動
第 4 分科会	情報教育・支援機器の活用
第 5 分科会	キャリア教育・進路指導
第 6 分科会	PTA・地域との連携
第 7 分科会	生活指導・寄宿舎教育

- (3) ポスター発表（10 月 18 日から 11 月 1 日まで公開）
- (4) PTA 座談会（オンライン会議による実施）

## 3 報 告

今年度の九州地区肢体不自由教育研究大会は、前回と同様、ポスター発表や動画、大会資料などを WEB 上に公開し、役員会や分科会、PTA 座談会は、オンラインでの開催、講話や講演、学校公開はオンデマンド配信にて行われた。

役員会では、PTA 連合会、PTA 会長会、校長会、全体会が行われ、研究会の課題や今後の方向性等が話し合われた。

文部科学省講話では、「新しい時代に向けた肢体不自由教育への期待」という演題で視学官兼特別支援教育調査官の菅野和彦氏が話をされた。

記念講演では、竹内葉子氏が、「誰もが豊かに暮らす社会の実現～養護学校を卒業して社会へ出て感じたこと～」という演題で、自らの社会生活の様々な体験をもとに話をされた。

分科会は、7 分科会に分かれ、それぞれのテーマ毎に提案者からの発表があり、質疑応答、協議の柱を中心とした協議、指導助言と続いた。各分科会でそれぞれの学校の特色のある実践の発表があり、活発な議論が展開された。

## 第 51 回九州地区情緒障害教育研究会 長崎大会

### 1 大会概要

- (1) 大会主題 「子どもたちの未来へつなぐ指導・支援の在り方を考える」  
～一人一人の教育的ニーズに合った支援や指導、連携の在り方を求めて～
- (2) 期 日 令和 5 年 8 月 23 日 (水)
- (3) 場所 (会場) 大村市中央公民館・シーハットおおむら  
(長崎県大村市幸町25番地33)

### 2 内 容

#### ○ 記念講演

講演タイトル 「発達につまずきがある子どもの心の受け止め方」  
講師 川上 康則 氏 (杉並区立済美養護学校主任教諭)

#### ○ 分科会

第1分科会：自閉スペクトラム症 (大分県・佐賀県)

提案者 山口 律子 氏 (竹田市立竹田小学校) 司会者 宮脇 寛美 氏 (大分市立野津原中学校)  
「自分の本当の気持ちに気づき、相手に伝えることができる姿を目指して」

『心と体の居場所作り』～A 児の思いに寄り添って～

提案者 南川 和美 氏 (唐津市立第一中学校) 司会者 小形 由美子 氏 (唐津市立長松小学校)  
「卒業後の自立を目指して」

～安心できる居場所作りとつながりの工夫～

第2分科会：LD・ADHD (長崎県・宮崎県)

提案者 江口 真治 氏 (佐世保市立相浦中学校) 司会者 服部 弘武 氏 (佐世保市立猪浦中学校)  
「中学校における通級指導教室において大切にしていること」

～安心できる場所 出口を見据えて支援 多くのニーズに応える工夫～

提案者 白石 千絵 氏 (宮崎市立広瀬小学校) 司会者 矢野 美保子 氏 (宮崎市立宮崎小学校)  
「よりよい人間関係づくりのための対人関係スキルの向上を目指して」

～実態把握をもとに組み立てた自立活動の指導・支援を通して～

### 3 報 告

記念講演では、「発達につまずきがある子どもの心の受け止め方」というテーマで、川上 康則 氏による講演が行われた。発達につまずきがある子どもの状況や、関わり方について、また、様々な手立てについて、先生のこれまでの実践事例をもとに、子ども達が将来に向かって生きていく上で必要な指導の在り方や向き合う教師の心構え等を学ぶことができ、大変好評であった。

第2分科会 (LD・ADHD) では、本県の宮崎市立広瀬小学校 白石 千絵 教諭の実践発表が行われ、「よりよい人間関係づくりのための対人関係スキルの向上を目指して～実態把握をもとに組み立てた自立活動の指導・支援を通して～」というテーマで、白石先生が担当する自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍するADHDの診断のある児童を対象とし、対人関係スキルを向上させることを目的としたさまざまな実践を紹介していただいた。綿密な実態把握をもとに、学習場面での支援を充実させることや、個別の教育支援計画を作成し、年間指導計画に基づいた様々な自立活動を展開し、指導・支援を行い子ども達にたくさんの成功体験を積ませること等、豊富な先生の実践を紹介していただき、会場でも先生の実践が高く評価され、積極的な意見交換がなされた。

## 第47回 九州地区難聴・言語障害教育研究会（長崎大会）

### 1 大会概要

- (1) 大会主題 「これからの難聴・言語障がい教育のあり方を考える」  
～子どもや保護者のニーズに応える支援や連携をめざして～
- (2) 期 日 令和5年8月3日（木）・4日（金）
- (3) 場所（会場） 長崎市民会館、男女共同参画推進センター（アマランス）

### 2 内 容

- (1) 記念講演 「もう迷わない！ことばの教室の吃音指導」  
講師 菊池 良和 先生（九州大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 医師）
- (2) 分科会（敬称略）
  - ① 第1分科会 「構音」  
《テーマ》構音に誤りのある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。  
【助言・レクチャー】増田 ゆかり 先生  
（社会福祉法人 長崎市福祉事業団 児童発達支援センターさくらんぼ園 園長）  
【提案】熊本県 沖縄県
  - ② 第2分科会 「吃音」  
《テーマ》吃音のある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。  
【助言・レクチャー】菊池 良和 先生（九州大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 医師）  
【提案】佐賀県 長崎県
  - ③ 第3分科会 「言語発達」  
《テーマ》言語発達に課題のある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。  
【助言・レクチャー】牧野 泰美 先生  
（国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員兼研究企画部 部長）  
【提案】福岡県
  - ④ 第4分科会 「聴覚」  
《テーマ》聴覚に障がいのある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。  
【助言・レクチャー】坂本 志子 先生（長崎県立ろう学校 校長）  
【提案】大分県
  - ⑤ 第5分科会 「連携」  
《テーマ》子どものために、どう連携し支援していくか。  
【助言・レクチャー】田中 智香子 先生（大村市教育委員会 発達支援アドバイザー）  
【提案】宮崎県 鹿児島県

### 3 報 告

近年、共生社会に向けたインクルーシブ教育システムの構築への様々な取組が進められている。障がいのある子どもと障がいのない子どもが可能な限り共に教育を受けられる学びの場の整備と、障がいのある子どもの自立と社会参加を見据え、一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるようにするためには、教師の専門性の向上が必要である。記念講演、分科会ともに、九州各県の会員や関係者が、これまでの自分の教育実践を振り返り、成果や課題を正しく捉え、協議する場をもつことができ、大変有意義な大会となった。また、これからの難聴・言語障がい教育のあり方や果たすべき役割について、考える機会ともすることができた。

VII 宮崎県小・中学校特別支援教育研究会と  
宮崎県特別支援学校教育研究会の活動報告

## 小・中特研部会

### 1 研究主題（テーマ）

「教育的ニーズに応える特別支援教育の在り方について」

### 2 主な研究・活動の内容

#### (1) 年間活動報告

- ① 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会定期総会・研究協議会及び第1回全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会参加（6月1日）【オンライン】
- ② 第1回事務局会（6月5日）
- ③ 第1回理事会（6月29日）
- ④ 九州難聴言語障害教育研究会長崎大会に参加（8月3日から4日）第5分科会「連携」で小林市立小林小学校 三浦弘子教諭が発表
- ⑤ 第51回九州地区情緒障害教育研究会長崎大会に参加（8月23日）「LD/ADHD分科会」で宮崎市立広瀬小学校 白石千絵教諭が発表
- ⑥ 第57回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会福岡大会（11月10日から11日）「作業学習・進路指導部会」で串間市立串間中学校 大岩本毅教諭が発表
- ⑦ 第2回事務局会（1月下旬）
- ⑧ 第2回理事会（2月20日）、研究集録「むすび」の発行（2月）
- ⑨ 監査（3月）

### 3 主な研究成果

#### (1) 成果

- 5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたため、対面での理事会を開催することができた。また、負担金を関係団体へ納金することができた。
- 九州地区特別支援教育研究連盟研究大会福岡大会では、串間市立串間中学校 大岩本毅教諭が、九州地区情緒障害教育研究会長崎大会では、宮崎市立広瀬小学校 白石千絵教諭が、九州難聴言語障害教育研究会長崎大会では、小林市立小林小学校 三浦弘子教諭が、それぞれ実践発表を行うことができた。
- コロナによる研究大会等のリモート開催で繰り越した運営費を、情緒部会の研修補助として活用することができた。

#### (2) 課題

- 年度初めに各地区での引継ぎがうまくできておらず、名簿作成等に時間がかかった。また、理事会での伝達事項が各地区に周知されず、何度も連絡をする必要があった。
- 各地区とも、負担金の財源に苦慮している。また、請求書や領収書の形式等が各地区によって異なるため、会計の対応が大変だった。
- 研究集録を冊子として作成・発行しているので、各学校での活用を呼びかけたい。

## 令和5年度 宮崎県特別支援学校教育研究会

### 1 組織

本会は、県内の特別支援学校によって組織され、職員の資質向上と特別支援教育の振興を図ることを目的とし、11部会で運営されている。

### 2 各部会の活動状況

#### (1) 教務主任部会

本年度は、コロナ禍から久しぶりに第1回目を赤江まつばら支援学校にて対面実施で行い、校内見学、学校概要説明、各校から出された課題に対する各校の取組状況の情報交換を行った。第2回を12月に会場を小林こすもす支援学校として、午前中に各学部見学、午後に第1回と同様取組状況等の情報交換を行う予定である。令和6年度は、各校でコロナ対策を踏まえながらも全校幼児児童による各行事の取組の再開を見据えた計画、授業時数等の教育課程編成、働き方改革の意見交換を行う予定である。

#### (2) 生徒指導主事部会

今年度は年2回の部会を計画した。研究テーマ「これからの生徒指導の在り方～連携と改善」について、各校の課題等を集約し意見交換を行った。第1回は6月に対面にて実施した。第2回は1月に宮崎法務少年支援センターにて講義及び施設見学を通し課題解決を図る予定である。これからもミラィム等を適宜活用し、即時に情報交換を行うことで連携を図り、共に課題を解決できるよう取り組んでいきたい。

#### (3) 保健主事・養護教諭部会

今年度は、新型コロナウイルスの5類移行に伴い、8月に明星視覚支援学校にて、数年ぶりに参集型での部会を実施した。協議では新型コロナウイルス感染症に関する取組をはじめ、各校からアンケートにて聞き取った議題や取組について情報交換を行い、共有することができた。5類移行後の感染症対策や学校保健計画の内容、修学旅行への看護師の帯同や医療的ケア生の行程の工夫や安全管理等について協議を深め、各校の今後の取組の参考とすることができた。

#### (4) 進路指導主事部会

本部会は、県立学校特別支援学校の進路指導主事及び宮崎県特別支援学校教育研究会理事(部会長)で構成されている。本年度の部会は、第1回目の開催を8月28日(月)に実施し、各学校の進路支援の取り組みについて情報交換を行った。特別支援教育課からも参加していただき、農福連携等の情報提供をいただいた。第2回目の部会は2月2日(金)に小林こすもす支援学校での開催を予定している。内容は、各学校の進路状況や進路指導上の成果や課題などについて協議を行い、次年度に役立てたい。

#### (5) 栄養教諭・栄養職員部会

本年度の栄養教諭部会は、第1回を7月25日に本校をホストにオンラインで開催し、給食感謝週間にて実施予定の内容や衛生管理について、物価高騰に対する対策等について協議した。第2回は、12月11日に延岡しろやま支援学校にて、調理場の見学や給食の試食、食に関する指導や各学校での衛生管理について情報共有・協議を行う予定である。今後も各校の課題や取組を共有し、安全・安心な給食運営と食育の充実を図っていきたい。

#### (6) 美術科代表者部会

平成14年から開催している「特別支援学校アート展」は、今年で21回を迎え、11月16日(木)より11月19日(日)まで宮崎県立美術館県民ギャラリーにて開催された。天気に恵まれ、1537名の来場者があった。今年のアート展の出品数は、造形・絵画273点、立体82点、書道33点、写真39点、合計427点となり、幼稚部、小学部、中学部、高等部総勢408名の出品者数となった。また、今年も13校によるコラボ企画として、壁面全体を覆う大作を制作し、大変好評であった。

#### (7) 音楽科代表者部会

9月と12月に行った音楽代表者部会では、日南くろしお支援学校の授業提供や延岡しろやま支援学校高千穂校の実践報告を受け、多様な児童生徒ひとりひとりの実態に応じた表現活動やICTを活用した授業展開等について協議を行った。各校の取組に関する情報交換も積極的に行い、互いに学び合うことができた。また、他の研修会への参加報告、県高等学校教育研究会音楽部会との連携等についても情報を共有し、今後につながる話し合いができた。

#### (8) 保健体育科代表者部会

本年度は年5回の部会を計画した。第1回は研究の進め方についての協議を行い、宮崎県学校体育研究発表大会で発表する学習内容系統表【思考力、判断力、表現力等】の内容について検討を行った。第2回は明星視覚支援学校にてフロアバレーの実技を行った。第3回は特別支援学校体育連盟準備委員会の進捗状況を報告した。第4回は宮崎県学校体育研究発表大会と全国学校体育研究発表大会の報告や、ICTを活用した授業についての研究を行う予定である。第5回は次年度の研究についての協議や特別支援学校体育連盟準備委員会の報告を行う予定である。

#### (9) 家庭科代表者部会

今年度は、5月・7月・11月に事務局を中心とした打合せを行い、本年度の本部会の日程や内容の検討、第1回・第2回部会の役割分担や準備を行った。第1回部会は、8月2日に対面にてみなみのかぜ支援学校で実施し、本年度のテーマの検討、実技講習「スーツの着こなし・マナーについて」、校内見学、各校での取組についての情報交換を行った。第2回部会は、12月8日にZOOMによるオンラインで実施、今年度のまとめ、来年度のテーマ確認、教材紹介、情報交換などを行った。

#### (10) 自立活動代表者部会

本年度は、清武せいりゅう支援学校を会場校(事務局3年目)とし、第1回目を7月に、第2回目を12月にオンラインにて実施した。第1回目は、「発達段階をふまえた自立活動とICT活用の理論と実践」に関する講義、事前アンケートを踏まえた各学校間の情報交換を行った。第2回目は、各学校の「自立活動×ICT活用実践事例」報告から情報共有を行い、協議と質疑応答にて学びを深めた。今後もより一層自立活動の指導の充実へと繋がる部会運営に努めていきたい。

#### (11) 情報教育代表者部会

第1回の部会を6月に小林こすもす支援学校にて参集型で実施した。各学校の現状や課題や取組について意見交換を行った。就学奨励費購入端末等が話題となった。第2回は宮崎県教育研修センターを会場として参集型で実施した。各参加者が情報端末を持ち寄ってMicrosoft Teamsの活用方法の情報共有を行ったり視覚入力装置の体験を行ったりする等、研修センターでの参集型部会の良さを生かした研修を行うことができた。

## VIII 宮崎県特別支援教育研究連合 規約・細則

# 宮崎県特別支援教育研究連合規約

## 第一章 名称

第 1 条 本会は、宮崎県特別支援教育研究連合と称し、事務局を会長指定の学校におく。

## 第二章 目的及び事業

第 2 条 本会は、特別支援学校と特別支援学級並びに通級指導教室（以下「特別支援学級等」という）を設置する小学校・中学校相互の連携を緊密にするとともに、特別支援教育に関する実践研究・調査及び特別支援教育の充実・振興を図ることを目的とする。

第 3 条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 1 エリア部会及び障がい種別教育研究部会等の設置による実践研究・調査
- 2 県内各地域、学校における研究の推進
- 3 研究発表会、教育講演会等の開催
- 4 関係機関、団体との連絡提携
- 5 ホームページによる研究報告、情報提供
- 6 その他本会の目的を達成するために必要と認められる事業

## 第三章 組織・構成

第 4 条 本会は、宮崎県小・中学校特別支援教育研究会及び宮崎県特別支援学校教育研究会の連合体として組織し、会員は該当加入校の所属職員及び本会の趣旨に賛同する者をもって会員とする。なお、本会の加入は学校単位とする。

第 5 条 第 3 条の目的を達成するために、エリア部会及び障がい種別教育研究部会（以下「部会」という）等の必要な部会を設けることができる。

## 第四章 役員

第 6 条 本会に次の役員をおく。

- 1 会長 1名
- 2 副会長 3名
- 3 理事 16名
- 4 監事 2名
- 5 部会長 部会数（エリア部会・障がい種別教育研究部会）
- 6 代議員 各部会から代表を選出。

第 7 条 会長及び副会長は理事会において互選し代議員会の承認を受ける。

第 8 条 理事は、特別支援学校及び特別支援学級等設置校の推薦により選出する。

第 9 条 監事は、特別支援学校及び特別支援学級等設置校の推薦により 2 名選出する。

第 10 条 部会長は、各部会から 1 名を選出する。

第 11 条 代議員は、各部会の推薦により選出する。

第 12 条 役員任期は 1 年とする。ただし、再任は妨げない。

第 13 条 任期中に欠員を生じたときは、理事会においてその補充を行う。なお、その任期は前任者の残任期間とする。

第 14 条 役員任期は次のとおりとする。

- 1 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- 2 副会長は、会長を補佐し会長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 3 理事は、会長・副会長を補佐し、会務を処理する。
- 4 監事は、本会の経理を監査する。
- 5 部会長は、部会を代表し、部会を総括する。
- 6 代議員は、本会の重要事項を審議する。

## 第五章 会 議

第15条 本会の総会は代議員会をもって当てる。

第16条 代議員会は、第6条に掲げる役員と事務局員をもって構成する。

第17条 本会は、代議員会、理事会、その他の会議を開催する。

第18条 代議員会は、本会の最高議決機関であり、事業報告・決算の承認、事業計画・予算の審議及び承認、役員承認並びに規約の改正、その他重要事項を審議・決定する。

第19条 代議員会は、定期代議員会及び臨時代議員会とする。

1 定期代議員会は、年1回開催する。

2 会長が必要と認めたとき、または、代議員会の3分の2以上の要求があったときには臨時代議員会を開くことができる。

第20条 代議員会は、役員過半数をもって成立し、決議は出席者の3分の2以上の同意を必要とする。

第21条 理事会は、必要に応じて開催し、会長がこれを招集する。

第22条 理事会は、次のような会務を処理する。

1 本会の重要事業を企画審議する。

2 代議員会に提出する報告書の議案を作成する。

3 その他事業の推進に関すること。

## 第六章 経 理

第23条 本会の経費は負担金、補助金及びその他の収入によって支弁する。

第24条 負担金については、別に定める規定により納入する。

第25条 本会会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。

## 第七章 規約の改正・細則

第26条 この規約は、代議員会の議決を経なければ改正することはできない。

第27条 本会の運営に関しては、別に細則を定める。

第28条 本規約は、平成17年4月1日より実施する。

## 付 則

- 本規約は平成7年2月28日より実施する。
- 平成16年7月27日改正。
- 本規約は平成17年4月1日より実施する。
- 平成17年7月26日改正（名称変更／宮崎県特殊教育研究連盟より宮崎県特別支援教育研究連合に改称）、実施。
- 平成18年7月31日改正（文言の変更／①特殊教育より特別支援教育に、特殊学級より特別支援学級に②宮崎県小・中学校特殊教育研究会より宮崎県小・中学校特別支援教育研究会に改称を受けて）、実施。
- 平成19年7月25日改正（文言の変更／①宮崎県盲・聾・養護学校教育研究会より宮崎県特別支援学校教育研究会に②盲・ろう・養護学校より特別支援学校に学校教育法等の一部改正を受けて）、実施。
- 平成23年3月1日改正（文言の変更／障害種別研究部会の表記を「障がい種別研究部会」に改称）、実施。
- 平成24年7月25日改正（条文の見直し及び条文の順序の変更）、実施。
- 平成26年6月19日改正（内容の変更／研究収録、機関誌の発行よりホームページによる研究報告、情報提供）実施
- 令和3年6月22日改正（名称変更／ブロック部会よりエリア部会に改称）
- 本規約は令和3年6月22日より実施する。

## 宮崎県特別支援教育研究連合 細則

- 第 1 条 (総 則) 本細則は、宮崎県特別支援教育研究連合規約第 27 条に基づいて定めるものである。  
本細則は、理事会の承認を得て発効する。
- 第 2 条 (事務局) 規約第 1 条に定めた事務局については、本連合事務局とエリア部会事務局、障がい種別研究部会事務局を置く。  
○ 本連合事務局については必要に応じて事務局校以外の小学校、中学校、特別支援学校に協力を要請する。
- 第 3 条 (部会) 規約第 5 条に設けた必要なエリア部会並びに障がい種別教育研究部会は次のとおりとする。ただし、代議員会の議決により改変することができる。
- 1 エリア部会  
宮崎・東諸県エリア部会、日南・串間エリア部会、都城・北諸県エリア部会、小林・西諸県エリア部会、西都・児湯エリア部会、延岡・西臼杵エリア部会、日向・東臼杵エリア部会
  - 2 障がい種別教育研究部会  
視覚障がい教育研究部会、聴覚障がい教育研究部会、知的障がい教育研究部会、肢体不自由教育研究部会、病弱教育研究部会、情緒障がい教育研究部会、難聴・言語障がい教育研究部会
- 第 4 条 (代議員) 規約第 10 条に定める代議員については、各エリア部会・障がい種別教育研究部会から各 1 名選出するものとするが、延岡・西臼杵エリア部会は延岡地区代表と西臼杵地区代表をそれぞれ設け 2 名選出するものとする。
- 第 5 条 (会議) 規約第五章における会議は、原則として次のものとし、本会を円滑に運営するためのものとする。
- 1 代議員会 (総会)  
会長、副会長、理事、監事、エリア部会長、障がい種別教育研究部会長、代議員、宮崎県小・中学校特別支援教育研究会事務局長、宮崎県特別支援学校教育研究会事務局長、本連合事務局
  - 2 理事会  
会長、副会長、理事、エリア部会長、障がい種別教育研究部会長、宮崎県小・中学校特別支援教育研究会事務局長、宮崎県特別支援学校教育研究会事務局長、本連合事務局
  - 3 事務局連絡会  
会長、副会長、エリア部会事務局、障がい種別教育研究部会事務局、宮崎県小・中学校特別支援教育研究会事務局長、宮崎県特別支援学校教育研究会事務局長、本連合事務局
  - 4 事務局会  
会長、副会長、宮崎県小・中学校特別支援教育研究会事務局長、宮崎県特別支援学校教育研究会事務局長、本連合事務局
  - 5 研究大会  
会員対象、関連する機関の参加も可とする。
- 第 6 条 (負担金) 規約第 24 条に基づく負担金については、次のとおりとし、代議員会の承認をもって決定する。
- 1 本会に所属する学級数で徴収する。
  - 2 負担金額 (別表 1)

- 第 7 条（監査） 監査は、毎年 1 回決算期に行う。監事は、帳簿、証拠書類、現金等の監査を行い、理事会に報告しなければならない。
- 第 8 条（積立金） 積立金は、宮崎県特別支援教育研究連合会計予算の一部または寄付金等をもってあてる。

付 則

- 本細則は、平成 17 年 4 月 1 日より実施する。
- 令和元年 6 月 20 日改正、（追記／基金）、実施。
- 本細則の改廃は、理事会の審議により行う。
- 令和 3 年 6 月 22 日改正
  - 部会名を「ブロック部会」から「エリア部会」に改称。宮崎県教育委員会が進める「エリアサポート体制」に準じ地域構成を変更した。「都北・西諸県ブロック部会」を分け、「都城・北諸県エリア部会」「小林・西諸県エリア部会」を追加。
  - 障がい種研究部会「難聴・言語障がい教育研究部会」から、「聴覚障がい教育研究部会」が分かれ編成される。
- 本細則は令和 3 年 6 月 22 日より実施する。

別表 1 負担金について

表：宮崎県特別支援教育研究連合負担金

	特別支援学校	小・中学校
負担金	1 学級 800 円	1 学級 500 円

## おわりに

会員みなさまのおかげをもちまして、宮崎県特別支援教育研究連合「会誌第29号」を作成することができました。

会誌には各部会、あるいは研究大会等の各分野の情報が集約されております。毎日奮闘されている先生方のお役に立つことができれば幸いです。

寄稿にあたりましては、各部会長の先生方をはじめとして、多くの先生方に御協力をいただきました。御尽力により「会誌第29号」が完成できましたことに対し、厚く御礼を申し上げます。

肢体不自由教育部会、情緒障がい教育研究部会、難聴・言語教育研究部会、日南・串間エリア部会、都城・北諸県エリア部会、延岡・西臼杵エリア部会の研究は公益財団法人日本教育弘済会宮崎支部から助成を受けて行った研究の結果である。

会誌 「第29号」  
発行日 令和6年 2月 2日  
発行人 宮崎県特別支援教育研究連合  
会長 松田 律子  
発行所 宮崎県特別支援教育研究連合 事務局  
宮崎県立清武せいりゅう支援学校